

The Documents of the Tosa Family in the Early Modern Age

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松尾, 芳樹, Matsuo, Yoshiki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000535

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



近世土佐家文書

松尾 芳樹

土佐派は中世に基盤を確立した大和絵の流派である。京都市立芸術大学芸術資料館には、この流派に近代まで継承された資料が所蔵されている。これら資料には、絵画資料のみならず多くの文書が含まれる。これまでその内容を明確にしていなかったため、調査を実施して目録を作成した。文書は約580点あり、大部分が18・19世紀のものである。内容に従い、文書群を6つのグループにわけた。“家伝”は土佐家の歴史と叙任の記録、“家業”は大嘗会や内裏造営に関係する文書など、家業に関連して作成された文書、“書状”は受領した書状と関連文書、“和歌”は懐紙や短冊など和歌連歌に係る文書、“写本”は典籍や文書の写本、“資料”は印類と裂標本の実物である。これら文書は、近世土佐派の活動を知るための貴重な情報を与えてくれる。

主要項目：土佐派 大和絵 近世文書 大嘗会 内裏造営 写本

The Documents of the Tosa Family in the Early Modern Age

By Matsuo Yoshiki

The Tosa School is a school of Japanese-style painting that established the base in the middle Ages. The museum, Kyoto City University of arts owns the material succeeded to modern ages in this school. This material contains not only the painting material but also a lot of documents. Because the content of these documents was not clear up to now, the documents were investigated this time and the list was made. The majority of the document with about 580 pieces was produced in the 18th and 19th centuries. I divided these documents into six groups according to the content. "Family recipe" is a group of the document that relates to the history and appointment in the Tosa family. "Family business" is a group of the document made in relation to the family business like the document etc. that relate to Daijoe Ceremony and the reconstruction of the imperial palace. "Letter" is a group that consists of the accepted letter and the associated document. "Japanese poetry" is a group of the document that relates to "Waka" and "Renga" (traditional Japanese poetry) such as "Kaish" (pocket paper) and "Tanzaku" (long strip of card-board) . "Transcript" is a group that consists of the transcript of the book or the document. "Object" is a group of the thing that consists of a stamp and the fabric sample. We can obtain valuable information to know the activity of the Tosa School at the early modern age from these documents.

Key Term : the Tosa School, document in the early modern age, Japanese-style painting,
Daijoe Ceremony, the reconstruction of the imperial palace, transcript

1. はじめに

京都市立芸術大学芸術資料館が所蔵する「土佐派絵画資料」は、大和絵の流派として知られる土佐家に伝えられた粉本・文書類である。昭和28年(1953)に水産学者の松井佳一(1891-1976)から、京都市立美術大学に寄付された。松井は古画の鑑賞に興味があり、土佐分家の末裔土佐光輝が所蔵していたものを偶然に一括購入の機会を得て所蔵していた。これは中世に遡る画系の宗家に連なる粉本類がまとまって遺された希有な事例である。

土佐派は大和絵の伝統を継承して長くその主流を占めた画派で、画系の祖として確実に知られるのは14世紀中ごろに絵所預となった藤原行光である。15世紀なかばから16世紀初めまで宮廷絵所預であった土佐光信の時代に流派は著しく発展し、宮廷・幕府の厚い信頼を受けた。子の土佐光茂も絵所預を継承したが、戦国時代の混乱に翻弄され、永禄12年(1569)に長男光元が戦死して土佐家は継承者を失うことになった。そのため土佐派は、光茂の弟子土佐光吉を中心に堺を拠点とするようになり、町絵師として画系を維持した⁽¹⁾。その子光則は寛永11年(1634)京都に移り土佐派再興を働きかけるがかなわず、光則の子光起の代となる承応3年(1654)にようやく宮廷絵所預に任じられた。以後この近世土佐家には、光成、光祐、光芳らが出て絵所預を世襲するようになり、近世における大和絵の伝統を継承する流派として活躍した。

「土佐派絵画資料」は整理上の数で約2000点にのぼる。絵画資料を中心として整理されているが、墨書を主体とする資料も多く、全体の約三割がこれら文書資料となっている。「土佐派絵画資料」の全体像の把握は、この絵画資料群と文書資料群を区分して扱うほうが理解しやすいことは早くから認識されていたが、これまで文書資料の整理は遅れていた。絵画資料については『土佐派絵画資料目録(一)～(九)』⁽²⁾によって、その半数が図録化されており、文書資料についても「近世土佐派記録(一)～(六)」⁽³⁾により公開しているが、いずれも部分を紹介するに止まっている。本稿は「土佐派絵画資料」中の文書資料群を整理して目録化し、その概要を報告するものである。

今回の整理作業により、文書全体を、内容から以下の6群に分類することができた。

家伝－土佐家の歴史と叙任に関する文書

家業－土佐家の家業に関連して作成された文書

書状－受領した書状及び関係文書

和歌－懐紙や短冊など、和歌・連歌に関する文書

写本－典籍や文書の写本

資料－印類と裂見本の実物資料

この6群のうち“家伝”と“家業”が共に大きな部分を占めており、それぞれが文書全体の三割にあたる。“家伝”の点数が多いのは、叙任の記録である口宣案が数多く含まれているためであり、“家業”の点数の多さは、大嘗会御用に関する記録と、鑑定の際作成された極札が比較的大きな資料群を形成していることによる。

文書全体は一部の例外を除いて18・19世紀の資料から構成されており、絵師でいうと土佐光芳以下の世代に関わるものが大部分を占める。これは絵画資料が中世末に遡るものから遺さ

れている点に比べて、大きく異なる特徴といえる。以下各群の解題を行う。

2. 家伝

記録類の中でも特に土佐家自身に関するものを集めた一群である。最も大きな比率を占めるのは口宣案《013-165》であり、「近世土佐派記録（二）」に紹介するとおり、土佐光成以下光章、光武時代のものまでが揃っている。現在東京国立博物館が所蔵する「土佐文書」⁽⁴⁾の光起の口宣案に連続する資料群である。土佐家以外の者として大村豊水の口宣案が混じるが、豊水は土佐派の絵師と思われ、その子高井豊泉も同じく土佐派の絵師であったと考えられるところから、事情があって豊泉より土佐家に戻されたものである。口宣案以外で家職に関するものとしては、近代の資料となるが、光武に対する宮内省からの辞令及び伝達書がある。この他光文、光武の事跡に関する近代の文書が数点加わる。

《001 土佐派系図》《002 土佐家没年目録》《011 土佐光信伝》《012 土佐光起伝書付》は、「近世土佐派記録（一）」で紹介した土佐家の系譜に関わる記録である。《006 土佐文書目録》は、東京国立博物館所蔵「土佐文書」の約半数を収録する目録となっており、近年まで「土佐文書」が本資料群と共にあったことを示している。《005 大芋社年貢米之事》は、土佐広周から土佐光信に受け継がれた絵所預領である丹波大芋荘と近江金勝寺定光坊跡の年貢に関する記録を貼り継いだものである。宮島新一氏により既に翻刻されているが⁽⁵⁾、応永19年（1412）から大永5年（1525）の年紀が見られる。土佐光元の戦死により後継者を失った光茂が弟子光吉に譲渡したとされる「絵本、証文、知行等」の内容を裏付けるものである⁽⁶⁾。しかし、当時すでにこの領地の実質的な支配権を失っていたことから、実益はなかったと考えられている。《003・004 土佐家印譜》は2軸あり内容はほぼ同じもので1軸に約120個の印が捺されている⁽⁷⁾。光吉以下光章、光清までの印があり、山内佑晃氏所蔵土佐家印類⁽⁸⁾中に大部分の印が確認できる。制作は光武の時代と考えられ、近年まで土佐家において印類が所蔵されていた証しとなっている。

《007 土佐家叙位留帳》《008 叙任傍例書付》《009 従四位家例傍例叙日書付》《010 土佐光貞俸禄上申書控》についていえば、「近世土佐派記録（一）」「近世土佐派記録（五）」に紹介するとおり、土佐家の叙任に関する運動の記録である。土佐光起が絵所に復して後、土佐家では家職をいかにして安定させるかを模索した。若くして父を失った光芳は、家業の断絶を防ぐため分家開業の働きかけを行い、光貞はその確立に苦心した。適切な位階に叙されることが家格の安定につながったため、他家の昇叙は関心の対象であり、安定した社会の中で絵所の地位と禄を確実なものとするために活動した様子がうかがえる。

その他、“家業”に収録したいくつかの文書は、土佐家周辺に見られた興味深い事跡を伝える。享保10年（1725）に、その前年まで京都所司代を務めていた老中松平忠周（1661-1728）を通して將軍徳川吉宗に土佐家の所蔵粉本を見せることになった。《175 土佐家所持絵本目録》《176 將軍御覧絵本目録》はこの時制作された土佐家の所蔵粉本の目録と、將軍側に見せることになった粉本の目録である。馬や鷹狩に関わる画題のものが集中しているため、もともとは何か具体的な目的があって土佐家粉本の閲覧が企てられたと思われるが、その後の展開をみれば、特に公的な用向きに関わるものではなかった。しかし、この一件により土佐家と幕府周辺との間

に繋がりが生まれたことは推測され、家業の安定に意味があったと考えられる。《174 土佐家秘書日録》は応永9年に土佐行光が記したという土佐家の秘書三種（『和画続伝譜略』『先代画工司補任』『絵所預春日日記』）についての記録の写しというが、秘書そのものは現存せず、原本である文書それ自体、行光のものである可能性は低い。すでに「近世土佐派記録（一）」に紹介した《174 住吉称号證文写》は、土佐光吉の門人とされる土佐広通（1599-1670）が住吉大社神主津守國治（1639-1677）から住吉称号を許可された証文⁽⁹⁾の写し。「近世土佐派記録（三）」に紹介した《173 大和旅行記》は、延宝7年（1679）の土佐家の旅行記録である。京都を出発して奈良・飛鳥・吉野の観光をしながら高野山に至る行程を光起または光成が記録しており、簡略な覚え書きながら、当時の旅の行程と史跡に学ぶ土佐家の歴史認識がわかる。

3. 家業

この一群は、絵所預としての職務に関わる記録と、土佐派絵師としての家業に関わる記録である。前者は、宮中の諸調度の制作関連資料と儀式の記録資料にわけることができる。後者は、古画の鑑定をよくしたという土佐光孚らの極札と諸種の留書である。この家業に関わる資料に絵図が含まれる場合があるが、本資料群の性格上土佐家で描いたと思われる記録絵図類⁽¹⁰⁾は絵画資料に含める整理方針がすでにあるため、文書資料から割愛している。

宮中での調度制作に関わる仕事として、近世土佐家が重要な役割を果たしたのが、寛政度及び安政度の内裏造営における障屏画制作と、元文3年（1738）以後の大嘗会における和歌屏風の制作である。

寛政度内裏造営は、天明8年（1788）の大火で焼失した内裏を再建した造営事業のことで、裏松固禪の考証をもとに平安古制に倣った復古的な造営が行われたことで知られており、寛政2年（1790）に竣工した。このとき土佐家は光貞・光時・光孚が襖・障子・屏風などの調度制作に関わっている。また安政度内裏造営は、嘉永7年（1854）の大火による寛政度内裏の焼亡を受けて、同様の規模で内裏を造営した事業で、安政2年（1855）に竣工した。この時は土佐光清・光文・光武が寛政度造営に準じた仕事をしている。

寛政度内裏造営に関わる資料として《182 寛政度安政度御造営御絵様絵師控》《183 寛政新内裏清凉殿鳥居障子次第》《184 清凉殿御障子倭面色紙之和歌》があり、安政度内裏造営に関わる資料として《185 新内裏御造営御絵様記録》《186 安政度造営清凉殿障子作者目録》《187 安政二年新内裏御造営御絵之門坪数取調大元帳写》《188 安政二年新内裏御造営御絵之門坪数取調大元帳写袋》をあげることができる。絵画資料の中の内裏造営関係資料⁽¹¹⁾と一群をなしており、いずれも『寛政御造営記』『鳳闕見聞図説』『安政御造営記』などの造営記録と同じ内容を絵師側の視点で伝える。

また《189 准后御殿新調屏風治定帳》《190 准后御殿御間絵様控》《191 新調道具御用絵様姓名控》のように、准后（九条夙子）のために慶応3年（1867）に行われた御殿造営にかかる調度調進の記録から、土佐家が鶴沢家と協力して、多数の絵師の中心となって活動した様子がうかがえる。こうした宮中諸調度の調進にあたり、土佐家の関わり方を具体的に示す事例としては、《194-200 軟障考》が参考になる。これらは軟障についての古記録を抄出したものだが、絵

画資料の中にも《高松軟障図》《軟障図》⁽¹²⁾が遺されており、内裏造営に限らず、古例に従って制作を行う場合の絵所預家御用の実態を垣間見ることができる。

天皇の即位後初めて行われる新嘗祭である大嘗祭は、中世末期に中断していたが、靈元天皇の尽力があって東山天皇の貞享4年（1687）に復興した。その後桜町天皇の元文3年、桃園天皇の寛延元年（1748）、後桜町天皇の明和元年（1764）、後桃園天皇の明和8年（1771）、光格天皇の天明7年（1787）、仁孝天皇の文政元年（1818）、孝明天皇の嘉永元年（1848）と継続して、明治期に継承している。土佐家は絵所預として、元文3年の大嘗祭から大嘗会に使用する悠紀主基屏風を調進するようになる。元文3年度は土佐光芳が、寛延元年度は土佐光淳が、明和元年度、明和8年度は土佐光貞が、天明7年度は土佐光貞と光時が、文政元年度は土佐光時と光孚が、嘉永元年度は光孚がそれぞれ担当した。

大嘗会は大嘗祭に引き続き行われる節会である。撰ばれた悠紀・主基二つの斎田に関わる景物を描く屏風を調製して儀式の場に設えることを常とした。この屏風は大嘗会における特別な調度であり、その制作を通して土佐家は重要な役割を担うことになる。本資料には量に多寡はあるもののおおむね各次の大嘗会関係文書《202-265》が遺されており、内容の大半は屏風制作の主題となる屏風和歌に関するものである。これは悠紀方、主基方双方18首が撰ばれ、この歌の内容に従って屏風絵を描くため、制作者には最も重要な資料として関心があった。

大嘗会関係文書の大部分はこの屏風制作に関わるものだが、大嘗会の次第を記録する資料も見られ、標山と呼ばれる祭礼における作り物についての記録も含まれる。また、明和元年度のものと思われる《221 画所参向行列次第》は、画所預が悠紀主基の屏風を宮中に納めるための行列を記録したものとして興味深い。『大嘗会便蒙』は国学者荷田在満（1706-1751）が元文3年の大嘗会の儀式を抄録して元文4年に出版したものだが、本資料には文政元年大嘗会の際に父光孚の御用を手伝ったと思われる14歳の光清が書写したもの《247》が遺る。

大嘗会の例に限らず、土佐家はしばしば儀式の記録を残している。先にも触れたように絵画資料の中には絵図によって儀式の記録を遺す場合があり、こうした儀式記録は、単に記録するにとどまらず、何らかの制作物に繋がるものであった可能性がある。文書の中で特徴的なのは行列記録が多いことで、《275・276 元禄七年四月御蔭山神幸御列》以後、近代にいたるまで12例を数える。《282 文政八年九月修学院御所御幸御列》では、家中で最も若い光清が記録にあたっており、こうした作業は若い絵師があたっていたと思われる。加えて、青蓮院宮坊官で能書家として聞こえた鳥居小路経孟（1828-?）による《287 明治十九年男山八幡宮例祭次第》が遺されており、《168 男山祭参向辞令（土佐光武宛）》に関わるものと思われる。

また13歳の土佐光芳は、宮中における年初の三節会すなわち元日節会、白馬節会、踏歌節会の次第を書写している。これは記録というより、祖父、父を相次いで失い、宝永7年（1710）に11歳にして絵所預となった光芳が、宮中の儀式について懸命に学ぶありさまをうかがわせるものであろう。土佐家が宮中儀式の記録に関わっていることは、本資料に遺された絵図、文書から確認され、光芳も当主としてその職を全うする責務を負わされていたことがわかる。《273 蹴鞠会次第》は承応3年（1654）5月に宮中で行われた蹴鞠会について生嶋秀敏が記録したもので、土佐家による記録ではない。生嶋家は桂宮諸大夫の家で、秀敏は生嶋宣盛（1628-1695）

の初名である。記録当時秀敏は従五位下宮内少輔であった。この時の土佐家は、3月に光起が従五位下に叙され左近衛将監に任じられた直後であり、いかなる目的で秀敏から譲られたかはわからないが、この文書は絵所預に復したばかりの土佐家と宮中との関わり方をうかがわせるものといえる。他に、安政改元の会議記録である《288 年号改元定記》や、叙位記録である《289 天保二年補略》のような記録の写しが遺されるのは、宮中における職務の日常に由来するものであろう。

土佐光孚は、鑑定をよくしたことが知られているが、そのことを裏付けるように本資料には多くの極札《290-342》が遺されている。「近世土佐派記録（五）」に紹介したとおり、それはある時期のものに限られており、遺された理由は不明である。ただ、遠祖土佐光起の鑑定に加え、狩野探幽をはじめとする狩野派の絵がこれを遙かに超えて多いことは、土佐家に於ける鑑定業の実際と当時の古画の流通状況を教えてくれる。

文書の中には、制作にちなむ覚えが断片として偶然遺されている例がある。その大部分を占めるのは故実に関する覚え書きで、土佐家が宮中で仕事をする場合、様々な知識が必要となったことは容易に推測される。歴史の知識は言うまでもなく、装束や次第など儀式の決まり、事物の形状や色など、絵を描く際に必要となる事項を書き留めることは日常的な行為であったのだろう。“写本”のように、まとまった部位を写す例ばかりでなく、要点を簡略に記して、制作の用にあてていたことがわかる。「土佐派絵画資料」の整理方針として、絵を主体とするものは絵画資料に区別しており、覚え書きにおいても絵図を主体としたもの⁽¹³⁾は絵画資料に分類されるため、ここには墨書中心の覚え書きが収録されている。また、元文3年に大徳寺で行われた曝涼記録と思われる《352 法山絵讃曝の図》や榎尾高山寺所蔵古画の記録など絵画関連の備忘録である《353 絵事雑録》など絵事関係の覚え書きもあり、故実のみならず、古画名画を研究する姿勢、すなわち眼を肥やす努力の実際をうかがうことができる。

4. 書状

書状類は文書資料の二割に達する。土佐家の書状としては、東京国立博物館所蔵「土佐文書」がよく知られている。「土佐文書」がもともとこの資料群と共にあったことは、本資料に含まれる《006 土佐文書目録》からわかるが、本文書における書状はこれに連続するものではない。

ここに遺る書状群の中心は、佐渡の中山家から土佐光清あるいは土佐光武周辺に送られた書状とそれに関連する文書である。これらは後述するように「中山家一件」とまとめてよいものであり、これに壺井義知や藤原貞幹ら国学者から土佐家によせられた故実に関する回答書、冷泉家との絵画制作を廻る交渉を示す書状、他家からの金子借用書などが加わる。

現在の書状の遺り方を見ると、土佐光成以後の書状類は、恐らく本家でも分家でも特に遺し伝えるべきものと意識されていなかったと考えられる。書簡の常として時の経過とともに次第に整理されがちなことは、この資料にもあてはまる。紙は貴重であったから、紙背の利用や裏張に使用することは日常的であった。「中山家一件」文書は、相続や金銭面での民事的問題が発生したため、ある時点から意識的に収集し、保管したのと考えられる。従って「土佐文書」は、土佐派の絵所預復帰に際して重要な意味を持つ特殊な文書として、家中で特別な扱いによ

り一括保存された貴重資料となっていたことが推測される。本文書の書状群は、「土佐文書」とは全く性格を異にするもので、保管の必要からたまたま遺されたものと考えたほうがよい。以下本文書中の書状群の概要を報告する。

<土佐光成、光祐関係書状>

土佐刑部すなわち土佐光成宛の林杏安金子預状と人見秀正返り手形がそれぞれ1通と、左近衛将監土佐光祐宛の金屋伝兵衛の金子預状が1通ある。1700年前後に記されたこれら文書は、書状の中では確認できる最も古いものとなる。林杏安は京都の医師として知られていた。

<土佐将監宛書状>

江戸時代中期の国学者壺井義知（1657-1735）が土佐将監に宛てた書状《357-360》。内容は主に公家の服飾に関わる質問に義知が答えたものである。文面から直接書状のかかれた時期を推測することは難しく、そのため義知の書状の宛先である土佐将監が、土佐光成、光祐、光芳の誰をさすのか確定しがたい。

<土佐光芳関係書状>

“家伝”に収録した享保10年（1725）の徳川吉宗御覧絵本目録に関わる書状が三通《361-363》見える。老中松平忠周の下で土佐家との交渉にあたった山村源八の書状である。本書状によれば絵本目録提出に際して細かな指示のあったことが分かる。常覚すなわち落飾後の土佐光芳及び土佐光淳に宛てられた寛延元年冷泉為村（1712-1774）書状《365》は、冷泉家の藤原定家像の光芳模本に関わる文書である。この定家像は現在も冷泉家に遺る霊元天皇拝領品《定家図》のことで、光芳が元文年間に模写した図も冷泉家に現存する。光文の代になって土佐家に返却されているので、光芳は複数模本を制作していたらしい。この書状が請求の根拠となったと思われる、返却の際冷泉為理（1824-1885）が添えた書状と併せて保管されていた。また、京都の狩野派の絵師である山本宗川（1799-1760）から常覚に宛てられた書状《364》は、宗川の法眼叙任日を答えたものである。

<土佐光貞関係書状>

京都の国学者藤原貞幹（1732-1797）からの書状と勘文が一群《366-371》となって遺っている。内容に特に一貫したものはないが、石戦に関する勘文には、同時期の京都の国学者である速水常成（1749-1797）の勘文も添えられている。同じ主題なのでここに併せられたものであろう。勘文の時期にはばらつきがあるようだが、安永4年（1775）の勘文が含まれていることから、光芳死後に土佐分家を担うことになった土佐光貞に関わるものと思われる。勘文の包紙に記された土佐守についても、貞幹の在世時期から考えて、光貞に宛てられたものとして問題ない。「大宋」という記述のある《366 土佐光貞宛書状》は、絵画資料に含まれている《大宋屏風図》⁽¹⁴⁾に関わる安永3年（1774）大宋屏風調進に関係するものか、あるいは寛政度内裏造営時に調進された同屏風に関わるものと思われる。打球についての勘文はやはり大宋屏風に関するものと考えてよい。

加えて、土佐家は叙任について他家に聞き取りをしていたらしく、御蘭常斌（1734-1801）・藤木成寿（1759-1819）による叙任の書付が遺されている。“家伝”に収録される叙任の記録と関連する書状であり、内容からみて光貞の代に関わるものと見られる。ちなみに、御蘭常斌は

土佐光孚の実父という伝がある。

<土佐光清関係書状>

土佐光清関係書状の大部分は先に触れた「中山家一件」にあたる。

この中山家というのは、『地下家伝』には見えないものの、何らかの縁があって伏見宮の家来となっていたらしい。国元は佐渡河原田（現新潟県佐渡市）であり、光清に書状を送る中山幸造は佐渡中山家の当主である。佐渡中山家は土地の名家であり、酒屋を営む富裕な商家であった。

書状に見える内容を整理してみると、幕末期に佐渡から中山貞義が京都に出て、その子玄倫の時代までに職を安定させたが、その子格之助は病気がちで死亡もしくは廃嫡されたらしく、跡継ぎが絶えてしまった。土佐光清はこの中山玄倫の娘を妻としたため、この中山家と親戚関係にあり、玄倫が亡くなり相続の必要が生じたことから、玄倫の孫にあたる光清の子恒丸が、懇願されて宋女と名乗って中山家に養子に入り、跡取りになった。中山家でこのような縁組みが行われた理由といえば、佐渡中山家の意向により血縁のないものが養子に入ることが受け入れられなかったため、中山玄倫の孫にあたる恒丸の養子が要請されたものと考えられる。

ところが光清の長男土佐光葆が亡くなり、中山宋女は土佐分家を相続すべき立場となる。折しも安政度内裏造営の大事業に際し、土佐家も充実を図らざるを得ないことから、光武として従六位下豊前介に叙任された。つまり、一人が二職を兼ねざるを得なくなったのである。これに藤木家が難色を示した。藤木家は代々典薬寮の鍼医者家で、藤木篤平の妻の妹が玄倫の妻中山清心院であるということから、やはり親戚関係があり、この跡目相続に抗議したものである。その趣旨は、中山宋女が土佐光武として土佐家を継げば中山家跡目は有名無実となってしまい断絶同様となることへの懸念である。土佐家にしてみれば嫡子を養子に出す道理はなく、中山家の懇願により縁組みしたものであったから、大いに困惑することになった。京都の中山家が絶えてしまうことは、佐渡の中山家にとっても不利益であつたらしく、形式的であつたとしても家の断絶は防ぎたかつたと思われる。

では、土佐家にとって一方的に迷惑な話であつたのかということ、国元の中山貞義の土地からの取入を京都の中山家は受けることができた。中山宋女として国元からの送金を受けることができたため、経済的には利益がある。それでも祖母である清心院が存命中は、まだ中山家の実体があつたため、問題なかつたのだが、清心院が亡くなると、宋女だけになり、中山家の実体がなくなってしまうということに藤木家は抗議したのである。

土佐家が光清・光武の書状を大量に所持していた大きな理由は、この相続に関わる問題への対抗策であつたと思われる。中山家からの送金を土佐家が受け取るに至る経緯と既成事実を記録しておく必要があつた。そして事態の收拾は、名を文啓という百々俊達の次男を中山家の養子とすることで落着する。中山文啓は元倫の玄孫ということのでかなり遠くはあるが、血縁があるため、国元の理解を得ることができたらしい。まだ幼かつたため、宋女と宋女の母すなわち光武と光武の母である玄倫の娘が後見に立つことになった。これで、清心院の死に際し問題となつた宋女による中山家相続は、文啓という跡取りができたことで一応の解決を見、中山家の断絶は避けることができた。以後、文啓への仕送りは後见人である土佐家と実家の百々家に送

られるようになるのである。

藤木篤平や勝山琢如（1815-1868）らの書状《386-399》は、全てこの中山家相続に関するもので、画家の勝山琢如は医師の安藤義之とともに、篤平から事態の收拾を托された人物である。勝山琢如は勝山琢文の子で琢舟、琢眼、琢文と続いた絵師の家に生まれた。琢舟が土佐家に学んだことがあったため、勝山家は土佐家に縁がある。そのような背景もあり、絵師仲間でもある琢如は篤平のやり方に疑念を持ち、土佐家側に理解を示している。もともと、光清には長男光葆がいたため、二男を中山家の養子にしたものと思われるが、嘉永元年（1848）に光葆が若くして亡くなったことが問題の原因であったと思われる。

<土佐光文関係書状>

冷泉家からの光文宛書状《404-407》は、冷泉為泰（1736-1816）の歌絵の依頼、冷泉為理の玉津島明神像制作の依頼及び藤原定家像光芳模本返却の添状である。先の常覚光芳宛て冷泉為村書状はこの為理書状と併せて保管されていた。興味深い資料は、維新政府の土族触頭から明治4年（1871）に絵所預の表札を禁止し土族と表記すべき旨の指示《408》が出されている点である。絵所預が廃されたのみならず、土佐家にとって最も大切な看板を失ってしまったことになる。

<土佐光武関係書状>

書状の中で最も大量に遺されるのが、この光武関係の書状である。大部分は「中山家一件」にあたり、佐渡の中山五平と中山立恭らからの書状が大半となる。五平は幸蔵の息子で中山家を継いで当主となっており、立恭は医師である。両者は、当時の佐渡河原田中山一族の中心人物と見なされる。中山宋女時代に宛てられた書簡と中山文啓の後見人として中山家と交渉する土佐光武への書状が遺されるが、中山家の後見人であったためか、佐渡と京都の間で交わされた中山家の文書も含まれ、光武関連の書状は複雑な状況を呈している。光清関係書状における「中山家一件」書状は主に相続に関するものであったが、光武関係書状では、光清没後に実際に中山家の世話をすることから、頻繁に人や金の動きが生まれたため、書状の種類が多様なものとなっている。

元治元年の金子預《464・465》は、7月の禁門の変の火災により京中に甚大な被害がもたらされたあとに、京都の銭屋から寄越された文書である。延焼範囲を考えれば土佐家も被災していたことが考えられるのだが、支払い猶予を認めているところは、仕方のない事情があったのかもしれない。後に光武が逆に借金をするようになる⁽¹⁵⁾ことを考えれば、明治維新は土佐家に大きな変化を余儀なくしたことになる。富岡鉄斎により光武に贈られた印の送り状《467》は、彼の交遊の一端を垣間見せるものといえる。

所蔵される由来不明の書状としては、楠木正成が建武三年に子の正行にあてた書状の写し《470》と、雪舟が如水宗測にあてた書状《471》の写しがある。前者は正成状としてよく知られて写しも多く、楠公像を描く際に入手したものであろう。後者は原本真偽不明にして、山水画の心得を説いたもの。宗測は雪舟筆《破墨山水図》⁽¹⁶⁾の序に記されることで知られる雪舟の弟子である。

5. 和歌

土佐家において、歌道への接近がいつごろからはじまるのか定かではない。ただ、土佐光信が連歌を好んだことは知られており、画所預の職にあつて公家らとの交渉も少なくなかつたところから、当時の土佐家が和歌に無縁であつたとは考えにくい。近世初頭に光吉や光則が源氏物語の画帖制作などに関わる様子を見れば、近世土佐家の制作においても、文学を介する和歌との関わりは無視できないものがある。文書中に土佐光吉と同世代といえる近衛信尹（1565-1614）の色紙《484・485》を伝えており、近世初頭の土佐家周辺に存在したこの道の人脈をうかがうことができる。

近世になって絵所預に復した光起においても、歌絵の絵巻を制作した痕跡⁽¹⁷⁾があり、和歌への関心はおのずと発生していたと考えられる。また、古筆了佐（1572-1662）の弟子嘉右衛門による宗長の極札を付す《502 連歌切》や「宗祇三百七箇条」をはじめとする連歌秘伝を書写した《501 連歌秘書》など、連歌に関わる資料がわずかに遺るのは、光信に代表される中世土佐派への敬慕のあらわれであろう。“家業”に収録した《341 連歌極札》は、常昭土佐光起と光成による連歌軸に対する極札であつたと考えられ、光芳の《503・504 連歌切》も遺ることをみれば、土佐家における連歌への興味は近世土佐家にも継承されている。

絵所預職の世襲が安定する光芳以降の時代になると、その交遊関係の中で自らも和歌を詠むことが定例化していった。短冊あるいは懐紙に歌を残すのは土佐光芳・光淳・光文・光貞・光孚・光清である。また、土佐家に懐紙短冊を遺すものとして、参議となつた風早実積（1691-1753）、京極宮家仁親王（1704-1768）、鍼師の御蘭常尹（1706-1764）、前大納言柳原光綱（1711-1760）、権中納言風早公雄（1721-1787）、歌人の賀茂（松田）直兄（1783-1854）、歌人の清原（五十嵐）中輔（?-1881）、歌人の冷泉為理（1824-1885）、土佐派画家の村上元茂（松嶺）（19世紀前半頃）、維新後子爵となつた慈光寺有伸（1828-1898）らの名が見える。短冊の詞を見れば土佐家においても歌会が設けられたことがうかがえる。ちなみに御蘭常尹は、光孚の実父という伝のある御蘭常斌の父にあたる。

6. 写本

土佐家においても、自らが制作する写生や下絵のみならず、参考とすべき典籍記録を書写して架蔵することがある。これは他の技芸に関わる家と変わることはない。あるときは全てを書写し、あるときは抄出して蓄えていた。個別に流通することのできる典籍の場合、いつしか家を離れて他所に移ることは珍しくないが、かろうじて家に遺されたものがある。この一群には、土佐家以外の者が書写したと思われる資料と、土佐家の者が原本の複製を目的として書写した資料を一括した。厳密さを問えば、この一群には光輝の手を離れて以後、土佐家の家藏品以外のものが混入する可能性があるが、資料の内容構成から判断してその影響は限定的にとらえてよいと考えている。

<社寺縁起・物語>

《508 平野郷社縁起》《506 三国三社権現縁起》《507 山王利生縁起》《509 高貴寺縁起詞》は社寺縁起にあたる。『平野郷社縁起』は、かつて平野熊野権現社と称した杭全神社（大阪府大阪

市平野区)の縁起であり、土佐光芳が描いた絵巻そのものも杭全神社に現存する。『三国三社権現縁起』はかつて三国権現と称した上野、信濃、越後の国境にある御阪三社神社(群馬県利根郡みなかみ町)の縁起であり、《山王利生縁起》は『日吉山王利生記』として知られる近江日吉神社(滋賀県大津市)の靈験譚である。どちらも段落部が指示されているため、絵巻類の制作に関わるものと考えられる。『高貴寺縁起』は慈雲飲光による再興で知られる河内高貴寺(大阪府南河内郡河南町)の縁起である。高貴寺には宗眼により延宝7年(1679)に描かれた『高貴寺縁起』があり、本資料はその詞の第一段を書写したものだが、この絵巻と土佐家との関わりは不明である。

本地物としてお伽草子の範疇にある《513 いくしまの本地》は、物語全文を書写した本文に朱筆で絵の挿入箇所が記入されており、絵巻または冊子によって制作が行われた可能性がある。こうした物語系絵画との関係でいえば、土佐家において『源氏物語』を画題とする屏風や画帖が多数作成されたことはよく知られており、本絵画資料にも粉本を貼り込んだ《源氏物語画帖》⁽¹⁸⁾が存在している。文書中に遺る『源氏物語』の断片的な資料も、こうした制作の周辺にあるものといえる。《510 竹取物語絵巻詞》は竹取物語絵巻の詞のみ抄出したもの。絵画資料に収録される《竹取物語絵巻》⁽¹⁹⁾との関係が推測される。

<歴史・故実>

宮中絵所として、絵画制作に多くの歴史的知識を必要とすることは避けられなかった。先の“家業”に見るとおり、土佐家が拝命した仕事には歴史や儀礼に対する知識の必要なものが少なくない。“書状”に見られる壺井義知や藤原貞幹との交わりも、制作上の必然があればこそ生まれたものである。

《515 時代一覽》は天保12年(1841)に出版された歴史人物の没年一覽で、土佐光信、光元、光則、光起、光成の名が見える。幕末期の土佐家の歴史認識の一端を教えてくれる。また、絵画資料に含まれる《足利義晴像》⁽²⁰⁾とともに伝えられた《516 萬松院殿薨去之事》や《517 豊国神君御葬式順列並記之記》は歴史記録を書写したもので、『続日本紀』元正天皇第四十四多度山美泉にちなむ養老改元故事部分の版写本である《514 続日本紀卷七》とともに、資料として絵画制作に関係した可能性がある。一方《519 夷艦防計録》や禁門の変の記録である《520 洛中擾乱大記》は、絵事に関係のない資料で、むしろ幕末の何かと騒がしい世情を反映するものでしかないが、このような記録が家中に遺されるところに、幕末の土佐家の日常が垣間見える。

平安末期の公卿中山忠親の日記に付された《521 山槐記陣執筆図》と、鎌倉時代の公卿三条公茂の《522 押小路内大臣公茂公記》は、どちらも公家日記の写本だが、記事を故実の参考とした可能性が高い。《518 江戸城本丸図》は大奥を含まない江戸城表絵図で、寛永度絵図からの部分写本と思われる。各部屋の配置の他、主要な部屋の天井の仕様、畳の置き方、襖の画題、絵師名を記入しており、江戸城における狩野派の仕事に関心が向けられている。

平安時代の儀式書である《523 雲図抄》や、調度及び建築図を『類従雜要抄』に擬えて九条家周辺において集成したと考えられる《524 類聚抄》は、絵図を伴う故実資料として制作の参考にされたと思われる。また、《525・526 文安御即位調度図》《527 享保二十年御即位装束図巻

《典侍・内侍・女王》は、即位の儀式に関する文献写本であり、即位の儀礼においても土佐家に何らかの役割が与えられていた可能性を示唆する。《528 冠帽図会》は松岡辰方（1764-1840）の著したかぶりものの図録で、儀式を描く際に便利な資料だが、写本は近代のものと思われる。三十六歌仙の服飾について考証した《529 三十六歌仙服飾備要》には、多数の押紙が見られ、写本を実際の制作の参考に使用したことを具体的に示す資料となっている。他に、武家故実に関するものとして伊勢貞丈（1718-84）注『鎧威毛図』を原堵室写本⁽²¹⁾から土佐光輝が書写したもの《530》があるほか、享保2年（1717）に水島卜也らから高橋勝九郎が伝授を受けた小笠原流の鞭策秘伝書の写しである《531 小笠原流鞭策秘伝》や母衣の故実を書き留めた《532 武羅之書》も兵法書の範疇に入る写本である。

< 諸学・ 諸芸 >

《533 本朝五常図並讃》の原本には、林家の儒学者で後に大学頭を務めた林鳳岡（1645-1732）の延宝7年（1679）讃があった。五常は儒学に説く仁、義、礼、智、信の五つの徳性をいうが土佐家との関わりは見えにくい。幕府方との関係が生まれる光芳の時代に書写されたものと考えられる。

少し特殊な資料として《534 仏法双六》がある。この種類の双六は、日本の双六の中でも古い形式を止めており、仏教における世界観を学ぶために生まれたものとして、源流は中世末頃に求められている。ここに遺るものは江戸時代前期に制作されたと思われる双六そのものである。内容体裁からして土佐家の関与は考えにくく、むしろ何らかの用途があって家蔵されたものであろう。また、月の周辺に現れる近星に関する占術覚えである《535 近星占術覚》は、いかなる用途があったか不明である。保管状況は書簡類の一群にされていたので、何者かとの往来の中で入手したものが、たまたま遺ったのかもしれない。宝船の版画は節分または年初の枕に敷く護符の一種で、ここには京都の画家6名が描いた同寸の墨刷版画《536-541》が遺る。画家の顔ぶれからすると光武時代に配り物として制作されたと思われるが、保存された理由は不明である。

7. 資料

「土佐派絵画資料」のなかには、絵図文書以外の資料も含まれている。この一群には、土佐家の印類と、宮中の調度制作に関わる裂標本を集めている。

すでに述べたとおり、土佐家の印類としては山内佑晃所蔵印類が知られている。その印影の大部分は“家伝”に収録した印譜に収録されているが、ここに遺される24個の印は、その印譜を作成した人物と思われる光武・光輝の印類であり、印譜には収録されていない。土佐光武は土佐家に伝えられる資料の再整理を試みていたことが推測され、資料中の古資料に自身の蔵印を捺した例がある。先の印譜の整理は、そうした光武の思考の一端を示すものと思われる。

裂標本は、御簾縁と軟錦と錦裂で、特に古裂として遺されたものではない。軟錦は襖や屏風の縁に使われるものであり、御簾縁ともども宮中の調度制作に関わった際の資料としたのであろう。この裂がどの時期に関わるものか不明だが、寛政度内裏造営時の調度制作のうちに軟錦と御簾縁の図を土佐家で制作⁽²²⁾していることに関係する可能性がある。

8. おわりに

約580点の文書群は決して膨大な規模とはいえない。しかし、絵所預という中世以来継承された職を担い、活動を続けていた流派が、近世においてどのような画業を展開したのかという素朴な疑問に対し、かけがえのない情報を伝えてくれる。それは、絵画の世界における京都の強い地域性を具現しており、近世における大和絵の保守的立場を明らかにするものといえるだろう。ただ、本資料群を整理して、新たな疑問も発生する。土佐光起が元禄3年(1690)に著したとされる画論書『本朝画法大伝』⁽²⁰⁾については、家中に断片すら遺っていないことである。今日、狩野派における狩野安信『画道要訣』にも比されて、重要視される書物でありながら、本文書の中にこの書物への参照例も見られず、現在の認識と大きな温度差を感じる場所である。画論に対する家中の距離の置き方を改めて問う必要があるだろう。

《注》

- (1) 光吉以下の近世土佐派絵師は以下のとおり。本家筋として光吉(1539-1613)、光則(1583-1638)、光起(1617-1691)、光成(1646-1710)、光祐(1675-1710)、光芳(1700-1772)、光淳(1734-1764)、光時(1765-1819)、光禄(1794-1849)、光文(1813-1879)、光章(1848-1875)、分家として光芳の子光貞(1738-1806)以下、光孚(1780-1852)、光清(1805-1862)、光武(1844-1916)、光輝(c1874-1921)と続いた。粉本を継承した光輝の代で廃業したが、光章の子光一は画家となっている。
- (2) 『土佐派絵画資料目録(一)肖像粉本(一)』(京都市立芸術大学附属図書館編集、京都市立芸術大学芸術資料館創立110周年記念事業実行委員会発行、1990)。『土佐派絵画資料目録(二)肖像粉本(二)』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1991)。『土佐派絵画資料目録(三)内裏造営粉本』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1992)。『土佐派絵画資料目録(四)鳳凰堂板絵・道釈画粉本』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1993)。『土佐派絵画資料目録(五)絵巻粉本(二)』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1995)。『土佐派絵画資料目録(六)絵巻粉本(二)』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1996)。『土佐派絵画資料目録(七)画帖(一)』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1997)。『土佐派絵画資料目録(八)画帖(二)』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、1999)。『土佐派絵画資料目録(九)画帖(三)』(京都市立芸術大学芸術資料館編集、京都市立芸術教育振興協会発行、2000)。
- (3) 拙稿「近世土佐派記録(一)」(「京都市立芸術大学芸術資料館年報 第3号」1993)。拙稿「近世土佐派記録(二)」(「京都市立芸術大学芸術資料館年報 第4号」1994)。拙稿「近世土佐派記録(三)」(「京都市立芸術大学芸術資料館年報 第5号」1995)。拙稿「近世土佐派記録(四)」(「京都市立芸術大学芸術資料館年報 第6号」1996)。拙稿「近世土佐派記録(五)」(「京都市立芸術大学芸術資料館年報 第7号」1997)。拙稿「近世土佐派記録(六)」(「京都市立芸術大学芸術資料館年報 第8号」1998)。
- (4) 元元元年鎌倉幕府下文以下貞享二年常昭宛口宣案までの土佐家文書119通を10巻に収録。木村徳衛『土佐文書解説』(木村徳衛、1935)に公刊。
- (5) 宮島新一『宮廷画壇史の研究』(至文堂、1996)347-355頁。
- (6) 土佐光茂から玄二(土佐光吉)への譲り状については、京都御所東山御文庫に写しが遺される。「土佐光茂譲状案」(『京都御所東山御文庫所蔵地下文書』(八木書店、2009)188-9頁)。
- (7) 「資料紹介 土佐家印譜」(「とさえ 第1号」京都市立芸術大学附属図書館編集、1990)。7頁。
- (8) 「土佐派印譜」(「栃木県立美術館紀要 No.6」1978)72-78頁。
- (9) 原本は東京芸術大学が所蔵する(内藤磐ほか『住吉大社と三十六歌仙額』(静学堂、2009)93-94頁)。
- (10) 例として『土佐派絵画資料目録』未収ながら「土佐派絵画資料」に含まれる《朝旦冬至図》(130012220100)、《御幸図》(130012360100)、《七月北陣図》(130012410100)、《節会図》(130012420100・130012430100)の卷子資料は絵図による儀式記録の草稿と思われる。
- (11) 前掲注2書『土佐派絵画資料目録(三)内裏造営粉本』収録資料。
- (12) 『土佐派絵画資料目録』未収。(130010650100～130010650300、130010660100～130010660200、130011720100～130011721000)

- (13) 例として『土佐派絵画資料目録』未取ながら「土佐派絵画資料」に含まれる《宮中儀式諸図覚》(130012080100), 《車輿図》(130012160100), 《車図》(130012170100), 《衣冠装束委曲図》(130012320100)の卷子資料は絵図による覚え書きを継いだものと思われる。
- (14) 『土佐派絵画資料目録』未取。土佐光貞《大宋屏風図》(130015080100) 安永3年(1774)。
- (15) 前掲注2書『『土佐派絵画資料目録(二)肖像粉本(二)』20頁。明治9年(1876)山口徳兵衛宛て土佐光武金子借用証文。
- (16) 明応4年(1495)に雪舟が弟子如水宗淵に与えたものとして知られる。東京国立博物館蔵。
- (17) 《名所歌絵巻》(130012380100)《方角歌絵巻》(130012510100)。前掲注2書『土佐派絵画資料目録(五)絵巻粉本(一)』収録資料。28-31頁。
- (18) 前掲注2書『『土佐派絵画資料目録(九)画帖(三)』収録資料。
- (19) 前掲注2書『土佐派絵画資料目録(六)絵巻粉本(二)』収録資料。10-11頁。
- (20) 前掲注2書『土佐派絵画資料目録(一)肖像粉本(一)』収録資料。10頁。
- (21) 京都市立芸術大学芸術資料館に手本と思われる原堵室写本《古鎧威毛色目》(122240001000)がある。
- (22) 前掲注2書『土佐派絵画資料目録(三)内裏造営粉本』収録資料。44-47頁。
- (23) 『日本絵画論大系』第五卷(坂崎坦編、名著普及会、1980)25-59頁。原本は東京芸術大学が所蔵する文政5年(1822)内田邦之写本が遺るのみである。

近世土佐家文書目録

凡例

- 1 本目録は、京都市立芸術大学芸術資料館が収蔵する「土佐派絵画資料」のうち文書資料のみを対象とする目録である。
- 2 文書全体を家伝、家業、書状、和歌、写本、資料の順に6群に分けている。また、各群の中を便宜的にいくつかのグループに分けて資料構成を理解しやすくした。
- 3 通番は、本目録のために新たに付した番号である。物理的な単位で番号を付与しているため、一具の資料が複数の資料番号にわたる場合がある。
- 4 資料名は、資料そのものに特に名称が記述されている場合を除き、資料を識別しやすい名称とした。原資料作者や資料内容内容などの補助的記事を括弧書により補ったものがある。
- 5 作者は、文書の製作者または書写者を示した。ただし、書状にあつては差出人を表している。
- 6 年紀は、文書を記述または書写した年を示した。ただし、資料またはその包紙などに、何らかの記述がある場合に限った。
- 7 文書形式は、本紙の形状を示す。包紙、封紙、封筒は別にした。装幀したものは卷子、軸、紙札、短冊、折本、堅冊、堅冊切本、横冊、横半冊として区分し、まくりの状態のものとして堅紙、継紙、切紙、切継紙、折紙を区分した。紙の大きさについては法量が示してあるため区別していない。文書は特に備考欄に記事がない限り紙本墨書である。頁数は全て一である。
- 8 法量は、本紙の縦と横を概ね最大値で記した。単位はcmである。折紙については堅紙に展開した状態の法量で示した。
- 9 備考欄には、資料個別の理由により必要な内容を記した。冊子にあつては丁数等を記す。書状においては差出人と宛名を示し、文面にこれらの記載なく上書のみ記される場合は特記した。和歌においては署名を、写本においては奥書等の年紀や筆者を記した。名称に図と表記されていないにもかかわらず図の入るものは特記した。その他必要に応じて技法素材について記した。
- 10 目録には、資料の翻刻及び解題等を取録する文献を略号で示す。目01は『土佐派絵画資料目録（一）肖像粉本（一）』を、目06は『土佐派絵画資料目録（六）絵巻粉本（二）』を、記01は「近世土佐家記録（一）」を、記02は「近世土佐家記録（二）」を、記03は「近世土佐家記録（三）」を、記04は「近世土佐家記録（四）」を、記05は「近世土佐家記録（五）」を、記06は「近世土佐家記録（六）」を、表す。これらの文献については本稿注を参考にされたい。
- 11 収蔵番号は京都市立芸術大学芸術資料館における資料の整理番号である。従来使用していた本資料の整理番号を流用するが、一部変更したものがある。

通番	資料名	作者(差出人)	年紀		文書形状	法量(縦)	法量(横)	備考	目録	取蔵番号
家伝										
系図伝記										
1	土佐派系図	土佐家			卷子	32.3	152.8		記01	130013280100
2	土佐家没年目録	土佐家	明治43年	1910	豎冊切本	15.7	11.4	3丁。	記01	130013450100
3	土佐家印譜	土佐家			軸	111.4	34.0			130014370100
4	土佐家印譜	土佐家			軸	113.5	43.9			130016070100
5	大芋社年貢米之事	土佐家	応永19年- 大永5年	1412- 1525	卷子	34.1	948.6			130016110100
6	土佐文書目録	土佐家			卷子	18.0	358.1		記05	130013530100
7	土佐家叙位留帳	土佐家	元禄9年頃	c.1696	横冊	12.1	34.2	6丁。	記05	130013500100
8	叙任傍例書付	土佐家			切縦紙	16.6	81.3		記05	130013540100
9	従四位家例傍例叙日書付	土佐光貞	享和2年	1802	切縦紙	16.3	54.0		記05	130013550100
10	土佐光貞俸禄上申書控	土佐家			卷子	17.9	179.2	土佐土佐守。	記01	130012840100
11	土佐光信伝	土佐家			豎冊	24.9	17.2	2丁。	記01	130013010100
12	土佐光起伝書付	土佐家			切紙	17.5	10.5		記01	130013480100
口宣案										
13	口宣案包紙(土佐光成)	土佐光成			包紙	36.6	5.9		記02	130014121601
14	口宣案(延宝9年叙正六位下・光成)	清閑寺熙定	延宝9年	1681	豎紙	33.8	52.3		記02	130014121603
15	口宣案(延宝9年任左近衛將監・光成)	清閑寺熙定	延宝9年	1681	豎紙	33.9	52.3		記02	130014121602
16	口宣案包紙(土佐光成)	土佐光成			包紙	36.7	6.4		記02	130014121501
17	口宣案(元禄9年叙従五位下・光成)	坊城俊清	元禄9年	1696	豎紙	34.1	52.5		記02	130014121502
18	口宣案(元禄9年任刑部権大輔・光成)	坊城俊清	元禄9年	1696	豎紙	34.1	52.5		記02	130014121503
19	口宣案包紙(土佐光祐)	土佐光祐			包紙	35.8	6.3		記02	130014120101
20	口宣案(元禄9年叙正六位下・光祐)	坊城俊清	元禄9年	1696	豎紙	34.0	52.0		記02	130014120102
21	口宣案(元禄9年任左近衛將監・光祐)	坊城俊清	元禄9年	1696	豎紙	34.0	52.0		記02	130014120103
22	口宣案包紙(土佐光芳)	土佐光芳			包紙	35.7	7.3		記02	130014123201
23	口宣案(宝永7年叙従六位上・光芳)	烏丸光榮	宝永7年	1710	豎紙	34.0	52.5		記02	130014123203
24	口宣案(宝永7年任右近衛將監・光芳)	烏丸光榮	宝永7年	1710	豎紙	34.0	52.6		記02	130014123202
25	口宣案包紙(土佐光芳)	土佐光芳			包紙	35.0	7.5		記02	130014123101
26	口宣案(正徳6年叙正六位下・光芳)	烏丸光榮	正徳6年	1716	豎紙	34.0	52.6		記02	130014123102
27	口宣案(正徳6年任左近衛將監・光芳)	烏丸光榮	正徳6年	1716	豎紙	34.0	52.5		記02	130014123103
28	口宣案包紙(土佐光芳)	土佐光芳			包紙	35.2	6.8		記02	130014123001
29	口宣案(享保10年叙従五位下・光芳)	中御門宣誠	享保10年	1725	豎紙	34.0	52.9		記02	130014123002
30	口宣案包紙(土佐光芳)	土佐光芳			包紙	35.3	6.5		記02	130014122901
31	口宣案(享保11年任大藏少輔・光芳)	中御門宣誠	享保11年	1726	豎紙	34.1	52.8		記02	130014122902
32	口宣案包紙(土佐光芳)	土佐光芳			包紙	35.2	7.2		記02	130014122801

33	口宣案 (享保 16 年叙從五位上・光芳)	滋野井実全	享保 16 年	1731	豎紙	34.1	52.7		記 02	130014122802
34	口宣案包紙 (土佐光芳)	土佐光芳			包紙	36.3	6.6		記 02	130014122701
35	口宣案 (元文 2 年叙正五位下・光芳)	庭田重熙	元文 2 年	1737	豎紙	34.3	52.8		記 02	130014122702
36	口宣案包紙 (土佐光芳)	土佐光芳			包紙	35.5	5.8		記 02	130014122601
37	口宣案 (元文 4 年任彈正少忠・光芳)	庭田重熙	元文 4 年	1739	豎紙	34.2	52.9		記 02	130014122602
38	口宣案包紙 (土佐光芳)	土佐光芳			包紙	34.5	6.8		記 02	130014122501
39	口宣案 (寛保 3 年任左京少進・光芳)	烏丸清胤	寛保 3 年	1743	豎紙	33.7	51.3		記 02	130014122502
40	口宣案包紙 (土佐光淳)	土佐光淳			包紙	34.6	6.2		記 02	130014121401
41	口宣案 (延享元年叙從六位上・任左近衛將監・光淳)	烏丸清胤	延享元年	1744	豎紙	33.1	51.4		記 02	130014121402
42	口宣案包紙 (土佐光淳)	土佐光淳			包紙	34.8	6.8		記 02	130014121301
43	口宣案 (寛延 4 年叙正六位下・光淳)	油小路隆前	寛延 4 年	1751	豎紙	33.5	51.6		記 02	130014121302
44	口宣案包紙 (土佐光淳)	土佐光淳			包紙	34.8	6.8		記 02	130014121201
45	口宣案 (宝暦 3 年任内蔵少属・光淳)	油小路隆前	宝暦 3 年	1753	豎紙	33.2	51.6		記 02	130014121202
46	口宣案包紙 (土佐光淳)	土佐光淳			包紙	34.2	6.8		記 02	130014121101
47	口宣案 (宝暦 3 年任内蔵大允・光淳)	油小路隆前	宝暦 3 年	1753	豎紙	33.2	51.5		記 02	130014121102
48	口宣案包紙 (土佐光淳)	土佐光淳			包紙	34.1	6.8		記 02	130014121001
49	口宣案 (宝暦 8 年叙從五位下・光淳)	日野資枝	宝暦 8 年	1758	豎紙	32.5	50.8		記 02	130014121002
50	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	34.8	6.8		記 02	130014122401
51	口宣案 (安永 4 年叙從六位上・光時)	烏丸光祖	安永 4 年	1775	豎紙	32.2	50.6		記 02	130014122402
52	口宣案 (安永 4 年任左近衛將監・光時)	烏丸光祖	安永 4 年	1775	豎紙	32.1	50.4		記 02	130014122403
53	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	35.5	7.0		記 02	130014122301
54	口宣案 (天明 2 年叙正六位下・光時)	油小路隆彭	天明 2 年	1782	豎紙	34.2	52.2		記 02	130014122302
55	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	35.2	7.0		記 02	130014122201
56	口宣案 (天明 9 年叙從五位下・光時)	広橋胤定	天明 9 年	1789	豎紙	33.6	51.6		記 02	130014122202
57	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	34.8	7.0		記 02	130014122101
58	口宣案 (寛政 8 年叙從五位上・光時)	広橋胤定	寛政 8 年	1796	豎紙	33.1	51.2		記 02	130014122102
59	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	34.0	6.8		記 02	130014122001
60	口宣案 (享和 3 年叙正五位下・光時)	裏松明光	享和 3 年	1803	豎紙	32.0	49.9		記 02	130014122002
61	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	35.3	6.8		記 02	130014121901
62	口宣案 (文化 10 年任伯耆守・光時)	万里小路建房	文化 10 年	1813	豎紙	33.3	51.9		記 02	130014121902
63	口宣案包紙 (土佐光時)	土佐光時			包紙	34.7	6.8		記 02	130014121801
64	口宣案 (文化 11 年叙從四位下・光時)	万里小路建房	文化 11 年	1814	豎紙	33.4	52.0		記 02	130014121802
65	口宣案包紙 (土佐光禄)	土佐光禄			包紙	35.0	7.1		記 02	130014120901
66	口宣案 (文化元年叙從六位上・光禄)	甘露寺国長	文化元年	1804	豎紙	32.8	51.0		記 02	130014120902
67	口宣案 (文化元年任上野介・光禄)	甘露寺国長	文化元年	1804	豎紙	32.9	50.9		記 02	130014120903
68	口宣案包紙 (土佐光禄)	土佐光禄			包紙	35.6	6.9		記 02	130014120801
69	口宣案 (文化 8 年叙正六位下・光禄)	勸修寺経則	文化 8 年	1811	豎紙	33.9	52.0		記 02	130014120802

70	口宣案包紙 (土佐光祿)	土佐光祿			包紙	35.0	7.0		記 02	130014120701
71	口宣案 (文化 10 年任左近衛將監・光祿)	万里小路建房	文化 10 年	1813	豎紙	33.7	52.2		記 02	130014120702
72	口宣案包紙 (土佐光祿)	土佐光祿			包紙	35.5	7.0		記 02	130014120601
73	口宣案 (文政元年叙従五位下・光祿)	広橋光成	文政元年	1818	豎紙	33.8	52.1		記 02	130014120602
74	口宣案包紙 (土佐光祿)	土佐光祿			包紙	35.0	7.0		記 02	130014120501
75	口宣案 (文政 9 年叙従五位上・光祿)	葉室顯孝	文政 9 年	1826	豎紙	33.7	52.1		記 02	130014120502
76	口宣案包紙 (土佐光祿)	土佐光祿			包紙	33.9	6.9		記 02	130014120401
77	口宣案 (天保 4 年叙正五位下・光祿)	万里小路正房	天保 4 年	1833	豎紙	32.5	50.8		記 02	130014120402
78	口宣案包紙 (土佐光祿)	土佐光祿			包紙	33.8	7.0		記 02	130014120301
79	口宣案 (天保 6 年任三河守・光祿)	万里小路正房	天保 6 年	1835	豎紙	32.8	51.6		記 02	130014120302
80	口宣案包紙 (土佐光祿)	土佐光祿			包紙	34.8	7.0		記 02	130014120201
81	口宣案 (天保 15 年叙従四位下・光祿)	日野資宗	天保 15 年	1844	豎紙	33.3	51.6		記 02	130014120202
82	口宣案包紙 (土佐光文)	土佐光文			包紙	34.5	7.0		記 02	130014110601
83	口宣案 (文政 11 年叙従六位上・光文)	万里小路正房	文政 11 年	1828	豎紙	33.5	51.8		記 02	130014110602
84	口宣案 (文政 11 年任肥後介・光文)	万里小路正房	文政 11 年	1828	豎紙	33.5	51.8		記 02	130014110603
85	口宣案包紙 (土佐光文)	土佐光文			包紙	33.8	7.0		記 02	130014110501
86	口宣案 (天保 6 年叙正六位下・光文)	万里小路正房	天保 6 年	1835	豎紙	32.6	51.3		記 02	130014110503
87	口宣案 (天保 6 年任左近衛將監・光文)	万里小路正房	天保 6 年	1835	豎紙	32.6	51.2		記 02	130014110502
88	口宣案包紙 (土佐光文)	土佐光文			包紙	34.0	6.8		記 02	130014110401
89	口宣案 (天保 13 年叙従五位下・光文)	坊城俊克	天保 13 年	1842	豎紙	33.0	51.1		記 02	130014110402
90	口宣案包紙 (土佐光文)	土佐光文			包紙	35.3	6.8		記 02	130014110301
91	口宣案 (嘉永 2 年叙従五位上・光文)	葉室長順	嘉永 2 年	1849	豎紙	34.0	51.5		記 02	130014110302
92	口宣案包紙 (土佐光文)	土佐光文			包紙	35.0	6.7		記 02	130014110201
93	口宣案 (安政 3 年叙正五位下・光文)	葉室長順	安政 3 年	1856	豎紙	34.0	51.8		記 02	130014110202
94	口宣案包紙 (土佐光文)	土佐光文			包紙	35.2	7.0		記 02	130014110101
95	口宣案 (慶応 2 年叙従四位下・光文)	葉室長邦	慶応 2 年	1866	豎紙	33.8	51.2		記 02	130014110103
96	口宣案 (慶応 2 年任備前守・光文)	葉室長邦	慶応 2 年	1866	豎紙	33.8	51.2		記 02	130014110102
97	口宣案包紙 (土佐光章)	土佐光章			包紙	35.8	7.0		記 02	130014110801
98	口宣案 (文久 3 年叙従六位上・光章)	葉室長順	文久 3 年	1863	豎紙	33.7	51.1		記 02	130014110803
99	口宣案 (文久 3 年任伊予介・光章)	葉室長順	文久 3 年	1863	豎紙	33.7	51.0		記 02	130014110802
100	口宣案包紙 (土佐光章)	土佐光章			包紙	35.5	7.0		記 02	130014110701
101	口宣案 (慶応 2 年任左近衛將監・光章)	葉室長邦	慶応 2 年	1866	豎紙	33.8	51.2		記 02	130014110702
102	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	34.0	7.0		記 02	130014112701
103	口宣案 (宝暦 4 年叙従六位上・任内匠大属・光貞)	日野資枝	宝暦 4 年	1754	豎紙	33.0	51.4		記 02	130014112702
104	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	34.3	7.0		記 02	130014112601
105	口宣案 (宝暦 11 年叙正六位下・光貞)	広橋伊光	宝暦 11 年	1761	豎紙	33.2	50.5		記 02	130014112602
106	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	33.8	6.9		記 02	130014112501

107	口宣案 (宝曆 13 年任内匠大允・光貞)	広橋伊光	宝曆 13 年	1763	豎紙	33.2	51.0		記 02	130014112502
108	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	33.8	6.9		記 02	130014112401
109	口宣案 (明和元年任左近衛將監・光貞)	烏丸光祖	明和元年	1764	豎紙	32.5	50.5		記 02	130014112402
110	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	34.0	7.0		記 02	130014112301
111	口宣案 (明和 5 年叙従五位下・光貞)	広橋頭光	明和 5 年	1768	豎紙	33.0	50.6		記 02	130014112302
112	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	35.5	7.0		記 02	130014112201
113	口宣案 (安永 4 年叙従五位上・光貞)	烏丸光祖	安永 4 年	1775	豎紙	34.1	52.1		記 02	130014112203
114	口宣案 (安永 4 年任土佐守・光貞)	烏丸光祖	安永 4 年	1775	豎紙	34.0	52.2		記 02	130014112202
115	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	34.7	6.8		記 02	130014112101
116	口宣案 (天明 2 年叙正五位下・光貞)	油小路隆彭	天明 2 年	1782	豎紙	34.0	52.2		記 02	130014112102
117	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	34.8	6.9		記 02	130014112001
118	口宣案 (寛政 4 年叙従四位下・光貞)	広橋胤定	寛政 4 年	1792	豎紙	34.4	52.0		記 02	130014112002
119	口宣案包紙 (土佐光貞)	土佐光貞			包紙	32.8	6.8		記 02	130014111901
120	口宣案 (享和 2 年叙従四位上・光貞)	烏丸資重	享和 2 年	1802	豎紙	31.3	46.7		記 02	130014111902
121	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	36.0	7.1		記 02	130014113601
122	口宣案 (寛政 2 年叙従六位上・光孚)	柳原均光	寛政 2 年	1790	豎紙	34.2	52.4		記 02	130014113602
123	口宣案 (寛政 2 年任備後介・光孚)	柳原均光	寛政 2 年	1790	豎紙	34.2	52.2		記 02	130014113603
124	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	33.8	7.0		記 02	130014113501
125	口宣案 (寛政 9 年叙正六位下・光孚)	柳原均光	寛政 9 年	1797	豎紙	33.0	51.3		記 02	130014113502
126	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	34.0	6.8		記 02	130014113401
127	口宣案 (享和 4 年叙従五位下・光孚)	甘露寺国長	享和 4 年	1804	豎紙	33.0	51.0		記 02	130014113402
128	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	34.0	6.8		記 02	130014113301
129	口宣案 (文化 3 年任土佐守・光孚)	日野資愛	文化 3 年	1806	豎紙	32.8	50.9		記 02	130014113302
130	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	35.0	6.8		記 02	130014113201
131	口宣案 (文化 8 年叙従五位上・光孚)	勧修寺経則	文化 8 年	1811	豎紙	33.8	51.9		記 02	130014113202
132	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	35.5	7.0		記 02	130014113101
133	口宣案 (文政元年叙正五位下・光孚)	広橋光成	文政元年	1818	豎紙	33.7	52.0		記 02	130014113102
134	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	34.5	6.9		記 02	130014113001
135	口宣案 (文政 12 年叙従四位下・光孚)	万里小路正房	文政 12 年	1829	豎紙	33.5	52.0		記 02	130014113002
136	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	34.1	7.0		記 02	130014112901
137	口宣案 (天保 11 年叙従四位上・光孚)	甘露寺愛長	天保 11 年	1840	豎紙	33.4	51.3		記 02	130014112902
138	口宣案包紙 (土佐光孚)	土佐光孚			包紙	36.2	7.0		記 02	130014112801
139	口宣案 (嘉永 5 年叙正四位下・光孚)	葉室長順	嘉永 5 年	1852	豎紙	34.0	51.5		記 02	130014112802
140	口宣案包紙 (土佐光清)	土佐光清			包紙	36.0	7.0		記 02	130014111501
141	口宣案 (文化 11 年叙従六位上・光清)	広橋光成	文化 11 年	1814	豎紙	33.5	52.0		記 02	130014111502
142	口宣案 (文化 11 年任豊前介・光清)	広橋光成	文化 11 年	1814	豎紙	33.7	52.0		記 02	130014111503
143	口宣案包紙 (土佐光清)	土佐光清			包紙	35.2	7.2		記 02	130014111401

144	口宣案（文政4年叙正六位下・光清）	広橋光成	文政4年	1821	豎紙	33.3	51.5		記02	130014111402
145	口宣案包紙（土佐光清）	土佐光清			包紙	34.6	7.0		記02	130014111301
146	口宣案（文政11年叙従五位下・光清）	万里小路正房	文政11年	1828	豎紙	33.5	51.8		記02	130014111302
147	口宣案（文政11年任伊勢守・光清）	万里小路正房	文政11年	1828	豎紙	33.4	51.8		記02	130014111303
148	口宣案包紙（土佐光清）	土佐光清			包紙	34.1	6.9		記02	130014111201
149	口宣案（天保6年叙従五位上・光清）	万里小路正房	天保6年	1835	豎紙	32.9	51.6		記02	130014111202
150	口宣案包紙（土佐光清）	土佐光清			包紙	33.2	6.6		記02	130014111101
151	口宣案（天保13年叙正五位下・光清）	坊城俊克	天保13年	1842	豎紙	32.8	51.2		記02	130014111102
152	口宣案包紙（土佐光清）	土佐光清			包紙	35.2	6.7		記02	130014111001
153	口宣案（嘉永5年任土佐守・光清）	葉室長順	嘉永5年	1852	豎紙	34.0	51.3		記02	130014111002
154	口宣案包紙（土佐光清）	土佐光清			包紙	35.2	6.6		記02	130014110901
155	口宣案（嘉永7年叙従四位下・光清）	葉室長順	嘉永7年	1854	豎紙	34.0	51.3		記02	130014110902
156	口宣案包紙（土佐光武）	土佐光武			包紙	35.5	7.1		記02	130014111801
157	口宣案（嘉永7年叙従六位上・光武）	葉室長順	嘉永7年	1854	豎紙	33.6	51.4		記02	130014111802
158	口宣案（嘉永7年任豊前介・光武）	葉室長順	嘉永7年	1854	豎紙	33.6	51.4		記02	130014111803
159	口宣案包紙（土佐光武）	土佐光武			包紙	34.7	6.8		記02	130014111701
160	口宣案（文久元年叙正六位下・光武）	葉室長順	文久元年	1861	豎紙	33.4	51.2		記02	130014111702
161	口宣案包紙（土佐光武）	土佐光武			包紙	35.2	6.7		記02	130014111601
162	口宣案（文久3年任土佐介・光武）	万里小路博房	文久3年	1863	豎紙	33.8	51.0		記02	130014111602
163	口宣案包紙（大村豊泉）	土佐家	寛政4年	1792	包紙	37.0	7.2		記02	130014121701
164	口宣案（明和3年叙法橋・大村豊水）	広橋伊光	明和3年	1766	豎紙	34.2	50.6		記02	130014121702
165	宣旨（明和3年叙法橋・大村豊水）	小槻宿祢	明和3年	1766	豎紙	36.8	53.7			130014121703
辞令・伝達書										
166	殿丁辞令（土佐光武宛）	宮内省	明治16年	1883	豎紙	22.6	29.2			130013600100
167	加茂祭参向令（土佐光武宛）	宮内省	明治19年	1886	豎紙	22.7	30.6			130013600200
168	男山祭参向辞令（土佐光武宛）	宮内省	明治19年	1886	豎紙	22.8	30.7			130013600300
169	青山御所御座所杉戸絵御用伝達書（土佐光武宛）	宮内省内匠寮	明治23年	1890	豎紙	27.9	39.8			130013600600
170	青山御所御座所杉戸絵御用伝達書封筒（土佐光武宛）	宮内省内匠寮	明治23年	1890	封筒	22.4	8.0			130013600700
171	京都市美術学校商議員辞令（土佐光武宛）	京都市参事会	明治26年	1893	豎紙	22.0	28.6			130013600400
諸記録										
173	大和旅行記	土佐家	延宝7年	1679	横冊	15.0	42.8	10丁。図入り。	記03	130013440100
173	土佐家秘書目録	土佐家			豎紙	28.5	43.0	応永9年（1402）土佐家大藏少輔行光奥書写。	記01	130012830100
174	土佐家所持絵本目録	土佐家	享保10年	1725	卷子	15.8	329.0		記01	130013290100
175	將軍御覽絵本目録	土佐家	享保10年	1725	折紙	28.5	41.0		記01	130013270100
176	住吉称号證文写	土佐家			豎紙	36.5	51.7	寛文3年（1663）國治→法橋如慶老内記。	記01	130013320100

賞状・寄付										
177	京都博覧会社賞状(土佐光文)	京都博覧会社	明治11年	1878	切紙	19.0	24.7			130013610100
178	京都博覧会社賞状(土佐光文)	京都博覧会社	明治9年	1876	切紙	26.8	20.5			130013610200
179	土佐光武寄進受納証	車折神社	明治24年	1891	縦紙	20.0	28.1			130013460100
180	京都市上京区宛寄付願書	土佐光武	明治26年	1893	縦紙	23.1	32.3			130013600500
181	伝達書(土佐光輝宛)	大日本興徳会	大正5年	1916	縦紙	26.4	52.7			130013600800
家業										
内裏等造営御用										
182	寛政度安政度御造営御絵様絵師控	土佐家	寛政2年	1790	縦冊切本	13.5	19.9	14丁。		130012920100
183	寛政新内裏清涼殿鳥居障子次第	土佐家	寛政2年	1790	縦紙	27.7	40.1			130013230100
184	清涼殿御障子倭画色紙之和歌	土佐家	寛政2年	1790	横半冊	14.1	20.0	6丁。		130013820300
185	新内裏御造営御絵様記録	土佐家	安政2年	1855	縦冊	24.4	17.4	76丁。		130012930100
186	安政度造営清涼殿障子作者目録	土佐家	安政2年	1855	切継紙	15.9	85.8			130013490100
187	安政二年新内裏御造営御絵之門坪数取調大元帳写	土佐家	安政2年	1855	縦冊切本	11.9	16.7	59丁。		130013820200
188	安政二年新内裏御造営御絵之門坪数取調大元帳写袋	土佐家			袋	28.7	16.4			130013820700
189	准后御殿新調屏風治定帳	土佐家	慶応3年	1867	縦冊	24.2	17.2	13丁。	記06	130012940100
190	准后御殿御間絵様控	土佐家	慶応3年	1867	縦冊	24.5	16.4	12丁。	記06	130012950100
191	新調道具御用絵様姓名控	土佐家・鶴沢家	慶応3年	1867	縦冊	24.4	16.5	20丁。	記06	130012960100
192	女御里御殿御絵繕分通り	土佐光孚・鶴沢探龍	嘉永元年	1848	縦冊	24.1	17.1	7丁。	記06	130012970100
193	御間御杉戸御下絵伺控	土佐家			横冊	14.4	46.5	4丁。		130012910100
194	軟障考	土佐家			切継紙	17.9	45.3			130013690100
195	軟障考(豊楽殿図)	土佐家			縦紙	28.1	41.6			130013690200
196	軟障考(兵範記)	土佐家			縦紙	28.5	40.6			130013690300
197	軟障考	土佐家			折紙	33.0	45.2			130013690400
198	軟障考(附軟障台考)	土佐家			折紙	30.6	54.9			130013690500
199	軟障考	土佐家			切継紙	17.8	62.7			130013690600
200	軟障考袋	土佐家			縦紙	28.5	40.3			130013690700
201	諸御殿御造営御修復御用年号書抜	土佐光清	安政7年	1860	横半冊	12.2	17.2	10丁。	記04	130013820100
大嘗会御用										
202	元文三年十一月大嘗会次第	土佐光芳	元文3年	1738	縦冊切本	14.3	20.9	20丁。		130013150100
203	元文三年十一月悠紀方主基方御屏風和歌	土佐家	元文3年	1738	横冊	16.8	45.5	4丁。		130013030100
204	元文三年十一月悠紀主基風俗和歌	土佐家	元文3年	1738	横冊	17.0	45.6	2丁。		130013260100
205	元文三年大嘗会悠紀方御屏風和歌	土佐家	元文3年	1738	折紙	30.7	42.4			130014340600
206	大嘗会次第	土佐家			折紙	30.4	43.0			130014340500
207	寛延元年大嘗会・諸節会等次第並悠基主基屏風和歌	土佐家	寛延元年	1748	縦冊切本	14.0	20.6	38丁。		130012890100
208	寛延元年大嘗会記録	土佐家	寛延元年	1748	横冊	14.3	41.8	2丁。		130013630100
209	大嘗会記録(卯日)	土佐家	寛延元年	1748	卷子	15.9	149.8			130013650100

210	大嘗会覚（御即位と申奉るは）	土佐家	明和元年	1764	切継紙（折紙）	47.0	61.1			130014340100
211	大嘗会覚（御即位とは）	土佐家	明和元年	1764	切継紙	47.5	61.2			130014340200
212	大嘗会覚（大嘗会と申奉るは）	土佐家	明和元年	1764	切継紙	47.5	61.3			130014340300
213	明和元年大嘗会御宸服帛御衣図巻	土佐家	明和元年	1764	卷子	28.4	282.1			130013670101
214	明和元年大嘗会御宸服帛御衣図巻包紙	土佐家	明和元年	1764	包紙	39.7	28.2			130013670102
215	明和元年豊明節会参集者	土佐家	明和元年	1764	切紙	15.3	44.0			130013670206
216	明和元年悠紀主基節会参集者	土佐家	明和元年	1764	切継紙	18.0	53.1			130013670207
217	明和元年大嘗会悠紀主基屏風舗設図	土佐家	明和元年	1764	切紙	18.1	36.5			130013670202
218	明和元年大嘗会悠紀主基屏風舗設覚	土佐家	明和元年	1764	縦紙	31.3	47.2			130013670203
219	悠紀主基屏風風俗歌	土佐家	明和元年	1764	卷子	17.8	105.3			130013670205
220	土佐光芳宛書状	前尾秀実	明和元年	1764	卷子	15.8	109.5			130013670204
221	画所参向行列次第	土佐家	明和元年	1764	卷子	18.0	133.8			130013670208
222	長和元年悠紀方屏風和歌	土佐家	明和元年	1764	折紙	32.2	46.3			130013670201
223	明和元年大嘗会屏風和歌并風俗歌包紙	土佐家	明和元年	1764	包紙	27.6	39.2			130013670209
224	明和元年大嘗会屏風和歌	土佐家	明和元年	1764	縦冊	30.4	21.8	20丁。		130013670300
225	明和元年大嘗会悠紀方屏風和歌	土佐家	明和元年	1764	折紙	45.6	64.3			130013670401
226	明和元年大嘗会悠紀方屏風和歌包紙	土佐家	明和元年	1764	包紙	45.4	64.3			130013670402
227	明和元年大嘗会主基方屏風和歌	土佐家	明和元年	1764	折紙	45.5	64.2			130013670501
228	明和元年大嘗会主基方屏風和歌包紙	土佐家	明和元年	1764	包紙	45.5	64.3			130013670502
229	明和元年大嘗会袋	土佐家	明和元年	1764	袋	32.5	24.0			130013670600
230	明和八年大嘗会悠紀方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	折紙	33.2	46.8			130010510100
231	明和八年大嘗会悠紀方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	折紙	39.7	54.2			130013680100
232	明和八年大嘗会悠紀方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	継紙	32.7	291.5			130013680700
233	明和八年大嘗会主基方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	折紙	39.8	53.9			130013680200
234	明和八年大嘗会主基方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	折紙	32.6	46.6			130013680300
235	明和八年大嘗会主基方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	折紙	33.2	46.6			130013680400
236	明和八年大嘗会主基方屏風和歌	土佐光貞	明和8年	1771	継紙	32.7	276.8			130013680600
237	明和八年大嘗会主基方風俗和歌	土佐光貞	明和8年	1771	継紙	33.0	56.0			130013680500
238	明和八年大嘗会悠紀主基節会舗設図	土佐光貞	明和8年	1771	切紙	20.6	28.0			130013680800
239	明和八年大嘗会袋	土佐光貞	明和8年	1771	袋	36.7	20.1			130013680900
240	天明七年悠紀主基屏風和歌色紙形	土佐家	天明7年	1787	縦冊	30.0	21.3	14丁。		130013820600
241	大嘗会覚	土佐家			切紙（綴）	28.3	14.0	3紙。		130013380100
242	大嘗会屏風御用覚	土佐光貞	安永4年	1775	横冊	14.2	40.1	3丁。		130013380200
243	山槐記元暦元年大嘗会	土佐家			折紙	32.8	46.3			130013380300
244	悠紀主基標山図	土佐家			縦紙	25.0	33.3			130013380400
245	悠紀主基標山図	土佐家			縦紙	28.0	41.3			130013380500
246	大嘗会覚包紙	土佐家			包紙	31.6	55.1			130013380600

247	大嘗会便蒙 (荷田在満)	土佐光清	文政元年	1818	竖冊	25.2	17.7	47丁。		130013180100
248	大嘗会悠紀方屏風和歌	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	36.0	49.3			130013660100
249	大嘗会主基方屏風和歌	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	39.4	55.2			130013660200
250	大嘗会悠紀主基屏風和歌包紙	土佐家	嘉永元年	1848	包紙	38.8	55.0			130013660300
251	悠紀主基本文勘進覚	土佐家	嘉永元年	1848	切紙	18.3	24.7	貼紙あり。		130013360100
252	悠紀主基本文勘進覚	土佐家	嘉永元年	1848	切紙	17.7	19.6			130013360200
253	悠紀主基本文勘進 (屏風仕様覚)	土佐家	嘉永元年	1848	切紙	15.9	33.6			130013360500
254	悠紀主基本文勘進 (悠紀主基屏風絵様覚)	土佐家	嘉永元年	1848	切紙 (綴)	18.4	24.6	2紙。		130013360400
255	悠紀主基本文勘進 (悠紀主基本文色紙色目)	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	33.3	45.8			130013361300
256	悠紀主基本文勘進 (悠紀方本文)	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	33.3	45.8			130013360900
257	悠紀主基本文勘進 (悠紀方本文)	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	34.9	48.8			130013361000
258	悠紀主基本文勘進 (悠紀方絵様)	土佐家	嘉永元年	1848	切紙	17.7	41.6			130013360600
259	悠紀主基本文勘進 (悠紀方絵様)	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	33.4	45.8			130013361400
260	悠紀主基本文勘進 (主基方本文)	土佐家	嘉永元年	1848	切継紙	17.8	85.3			130013360700
261	悠紀主基本文勘進 (主基方本文)	土佐家	嘉永元年	1848	竖紙	28.5	40.5			130013360800
262	悠紀主基本文勘進 (主基方本文)	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	34.9	48.8			130013361100
263	悠紀主基本文勘進 (主基方本文)	土佐家	嘉永元年	1848	折紙	33.3	45.3			130013361200
264	悠紀主基本文勘進 (主基方屏風絵様覚)	土佐家	嘉永元年	1848	切紙	16.8	24.1			130013360300
265	悠紀主基本文両勘進包紙	土佐家	嘉永元年	1848	包紙	27.4	39.5			130013361500
節会等記録										
266	元日節会略次第	土佐光芳	正徳2年	1712	横半冊	16.9	24.8	7丁。		130013160100
267	踏歌節会略次第	土佐光芳	正徳2年	1712	竖冊切本	16.6	24.8	17丁。		130013190100
268	白馬節会略次第	土佐光芳	正徳2年	1712	竖冊切本	17.0	24.5	15丁。		130013200100
269	三節会宣命写	土佐光芳	享保9年	1724	竖紙	26.2	38.2			130013140100
270	節会略頌及三節会次第	土佐家			竖冊	23.7	17.2	20丁。		130013170100
271	白馬節会及踏歌節会次第	土佐家			竖冊	24.5	17.3	8丁。		130013130100
272	法華三昧曼荼羅供等記録	土佐家			横冊	14.3	41.2	4丁。		130013510100
273	蹴鞠会次第	生嶋秀敏	承応3年	1654	折紙	34.0	48.5			130014340400
行列記録										
274	新内裏遷幸御次第	土佐家			竖冊切本	13.8	19.8	7丁。		130012980100
275	元禄七年四月御蔭山神幸御列	土佐家	元禄7年	1694	竖冊切本	20.5	7.1	20丁。		130013740100
276	元禄七年四月御蔭山神幸御列	土佐家	元禄7年	1694	切紙 (綴)	21.4	4.4	8紙。		130013740200
277	享保十一年六月閏白宣下拝賀行列	土佐家	享保11年	1726	竖冊切本	22.8	7.6	10丁。		130013770100
278	中御門院御脱履御移徙御行列	土佐家	享保20年 - 元文2年	1735-37	竖冊切本	20.4	9.8	21丁。		130013110100
279	中御門院御幸初	土佐家	享保20年 - 元文2年	1735-37	竖冊切本	20.2	9.8	12丁。		130013720100

280	明和七年四月賀茂祭御行列	土佐家	明和7年	1770	豎冊切本	20.6	9.3	20丁。		130013710200
281	寛政三年四月賀茂祭御行列	土佐家	寛政3年	1791	豎冊切本	20.3	9.4	15丁。		130013710100
282	文政八年九月修学院御所御幸御列	土佐光清	文政8年	1825	豎冊切本	17.1	8.3	19丁。		130013760100
283	天保十三年八月太政大臣御拝賀御列	土佐家	天保13年	1842	豎冊切本	20.3	6.9	33丁。		130013750100
284	弘化三年仁孝天皇御葬送御列書	土佐家	弘化3年	1846	豎冊切本	17.5	6.7	35丁		130013730100
285	放生大会 行列之次第	土佐家			豎冊切本	17.9	8.2	15丁。		130013780100
286	放生大会 行列之次第	土佐家			横半冊	15.9	8.1	8丁。		130013780200
287	明治十九年男山八幡宮例祭次第	鳥居小路経孟	明治19年	1886	豎冊	24.7	17.3	13丁。		130016060100
公事記録										
288	年号改元定記	土佐家	嘉永7年	1854	豎冊切本	14.1	20.3	8丁。		130013080100
289	天保二年補略	土佐家	天保2年	1831	豎冊切本	13.9	20.3	31丁。		130013090100
極札										
290	寿星舟乗図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保6年	1835	紙札	16.7	3.0		記05	130013830300
291	泥絵桜図極札(尾形光琳)	土佐光学	天保7年	1836	紙札	16.7	3.0		記05	130013830400
292	張果郎図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保7年	1836	紙札	16.7	3.0		記05	130013830600
293	梅に黄鳥図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保7年	1836	紙札	16.7	3.0		記05	130013830500
294	雪中柳に鳩図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保7年	1836	紙札	16.7	3.0		記05	130013830700
295	墨画山水図極札(狩野尚信)	土佐光学	天保7年	1836	紙札	16.7	3.0		記05	130013830800
296	墨画山水図極札(狩野尚信)	土佐光学	天保7年	1836	紙札	16.7	3.0		記05	130013830900
297	墨画山水図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831000
298	人麿図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831100
299	須磨桜図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831300
300	明石紅葉図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831200
301	福祿寿馬乗図極札(狩野安信)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831400
302	鶴図極札(狩野安信)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831500
303	雛子図極札(狩野安信)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831700
304	春夏山水図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013832200
305	秋冬山水図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831600
306	四季富士図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831800
307	福祿寿図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013832000
308	梅に鴨図極札(狩野安信)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013831900
309	菊に小禽図極札(狩野探幽)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013832100
310	旭に竹図極札(狩野尚信)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013832300
311	月に梅図極札(狩野安信)	土佐光学	天保8年	1837	紙札	16.7	3.0		記05	130013832400
312	小町図極札(土佐光起)	土佐光学	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013832500
313	伊勢図極札(土佐光起)	土佐光学	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013832600
314	菅公図極札(土佐光起)	土佐光学	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013832700

315	雪中花鳥図極札 (土佐光起)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013832800
316	渡唐天神図極札 (狩野永徳)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013832900
317	福祿寿図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833100
318	樓閣山水図極 (狩野探幽)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833000
319	酒店山水図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833200
320	墨梅図極札 (尾形光琳)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833300
321	旭に墨梅図極札 (尾形光琳)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833400
322	山水図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833500
323	虎溪三笑図極札 (久隅守景)	土佐光孚	天保9年	1838	紙札	16.7	3.0		記05	130013833600
324	山水図極札 (久隅守景)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013833700
325	福祿寿図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013833900
326	山水図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834000
327	水に鷺図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013833800
328	福祿寿図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834100
329	芦雁図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834300
330	竹図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834200
331	福祿寿図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834400
332	梅図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834500
333	山水図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834600
334	雨後滝図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834800
335	松間滝図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834900
336	月下波図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013834700
337	唐八景図極札 (狩野尚信)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013835000
338	三福神図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013835100
339	鉢に鶴鶴図極札 (狩野探幽)	土佐光孚	天保10年	1839	紙札	16.7	3.0		記05	130013835200
340	竹に雀図極札 (萩坊乗門)	土佐光孚	天保12年	1841	紙札	16.7	3.0		記05	130013835300
341	連歌極札 (土佐光起・光成)	土佐光孚	嘉永3年	1850	紙札	16.7	3.0		記05	130013830200
342	八幡太郎義家図極札 (土佐光起)	土佐光文	文久2年	1862	紙札	16.7	3.0		記05	130013830100
制作雑録										
343	源氏十二月絵目録	土佐家			折紙	32.5	45.6			130013210100
344	極彩色十二月絵歌	土佐家			横冊	12.2	33.2	2丁。		130013220100
345	極彩色十二月絵歌	土佐家			横冊	12.3	32.5	2丁。		130013220200
346	貞享二年月次屏風歌	土佐家	貞享2年	1685	横冊	15.5	42.3	2丁。		130013250100
347	高齒会図添書	土佐光孚			切紙	16.5	8.1			130016010800
故実覚										
348	故実覚 (根合之事)	土佐家			縦紙	24.0	33.0	図入り。		130012140200
349	故実覚	土佐家			横半冊	14.4	21.2	6丁。		130013020100

350	故実覚書	土佐光芳			縦冊切本	16.7	24.6	8丁。図入り。		130013100100
351	公卿氏名表記覚	土佐家			切継紙	15.9	74.0			130016080100
古画研究										
352	法山絵講曝の図	土佐家	元文3年	1738	横冊	14.5	41.8	6丁。図入り。		130012900100
353	絵事雑録	土佐家	元禄12年・ 文化2年・ 文化4年	1699・ 1805・ 1807	縦冊	26.6	20.7	3丁。		130013580100
書状										
土佐光成・光祐関係										
354	土佐光成宛金子預状	金屋伝兵衛	元禄16年	1703	切紙	29.9	18.2	金屋伝兵衛→土佐刑部。		130012850400
355	土佐光成宛返り手形	人見秀正	宝永2年	1705	切紙	28.6	17.3	人見秀正→土佐刑部。		130012850300
356	土佐光祐宛金子預状	林杏安	元禄10年	1697	切紙	29.0	26.4	林杏安→土佐将監。		130012850500
土佐将監関係										
357	土佐将監宛書状	壺井義和			裏打	15.8	67.2	(上書) 壺井安左衛門→土佐将監。		130013700100
358	土佐将監宛書状	壺井義和			裏打	15.4	44.0	(上書) 安左衛門→将監。		130013700200
359	土佐将監宛書状	壺井義和			継紙	15.4	51.1	(上書) 壺井安左衛門→土佐将監。		130013700300
360	土佐将監宛書状	壺井義和			継紙	28.3	40.4	(上書) 壺井安左衛門→土佐将監。		130013700400
土佐光芳関係										
361	土佐光芳宛書状	山村源八	享保10年	1725	切継紙	15.0	100.8	山村源八→土佐左近将監。		130014135600
362	土佐光芳宛書状	山村源八	享保10年	1725	切継紙	15.5	72.3	山村源八→土佐左近将監。		130014135900
363	土佐光芳宛書状	山村源八	享保10年	1725	切継紙	15.4	90.5	山村源八→土佐左近将監。嘉勝(判)。		130014136000
364	土佐光芳宛書状	山本宗川			切紙	17.3	40.8	(上書) 山本宗川→土佐常覚。		130014340700
365	土佐光芳及び土佐光淳宛書状	冷泉為村	寛延元年	1748	縦紙	32.6	46.0	為村(判)→土佐入道、土佐左近将監。		130013340100
土佐光貞関係										
366	土佐光貞宛書状	藤原貞幹			切紙	16.3	49.4	(上書) 貞幹→土佐土佐守。		130016010100
367	年中行事画五月五日菖蒲興并時花ヲ献スル図考証	藤原貞幹	安永4年	1775	縦紙	27.2	39.7			130016010300
368	石戦勘文	藤原貞幹			縦紙	27.8	39.2			130016010400
369	採桑老舞衣散手襦袢勘文	藤原貞幹			継紙	25.8	52.1			130016010500
370	打球勘文	藤原貞幹			縦紙	27.7	39.3			130016010600
371	藤原貞幹勘文封紙	藤原貞幹			封紙	27.2	22.2	藤叔藏→土佐土佐守。		130016010700
372	石戦勘文	速水常成			折紙	29.2	40.6			130016010200
373	土佐光貞宛書付	御蔭常斌			切紙	14.5	26.6	(上書) 常斌→土佐守。		130014135800
374	御蔭常斌宛書付	藤木成寿			切紙	18.2	33.6	(上書) 成寿→女蕃頭。		130014135700
375	藤木成敬藤木成棟叙任覚	作者不詳			切紙	21.4	17.1			130014130700
土佐光清関係										
376	近江屋正三郎及年寄与兵衛宛書状写	土佐光清	文久2年	1862	切紙	15.7	19.2	土佐土佐守→年寄与兵衛、近江屋正三郎。		130014130100
377	中山文啓跡相続覚	土佐光清			切継紙	14.4	100.4			130014132400

378	百々俊達及土佐光清宛書状	中山幸造			切継紙	16.1	40.7	中山幸造→百々尾張介、土佐土佐介。		130014136901
379	百々俊達及土佐光清宛書状（封紙）	中山幸造			封紙	25.1	35.0	中山幸造→百々尾張介、土佐土佐介。		130014136902
380	書取覚（一）	中山清心院			折紙	31.7	43.9	380・381 一具。		130014132201
381	書取覚（二）	中山清心院			折紙	31.7	44.0	380・381 一具。		130014132202
382	土佐某宛書状	中山五兵衛			切継紙	17.9	103.0	五兵衛→土佐前惠衛。		130014132500
383	口上覚	中山家（佐渡）			切継紙	18.3	59.7	383-385 一具。		130014132801
384	午未年作米覚	中山家（佐渡）			切紙	15.4	12.2	383-385 一具。		130014132802
385	口上覚（封紙）	中山家（佐渡）			封紙	22.9	24.7	383-385 一具。		130014132803
386	口上覚	藤木篤平			切継紙	16.0	47.0			130014131500
387	土佐光清宛書状	藤木篤平			切紙	16.4	23.5	（上書）藤木典業権助→土佐土佐守。		130014131000
388	土佐光清宛証文	藤木篤平	文久元年	1861	切継紙	16.2	35.4	藤木典業権助→土佐土佐守。		130014133600
389	土佐光清及土佐於壽院宛書状	藤木篤平・藤木静顯	文久元年	1861	切紙	16.6	33.8	藤木近江守、藤木典業権助→土佐土佐守、土佐於壽院。		130014130300
390	正親町三條実愛及飛鳥井雅典宛口上覚写	藤木篤平	文久元年	1861	切継紙	16.0	71.2	藤木典業権助→正親町三条大納言、飛鳥井侍從宰相。山本典業大允（山本隨）から両者への口上覚を併せ写す。		130014135100
391	小松屋太兵衛宛書状	藤木篤平			切紙	16.7	14.7	藤木伊勢守→小松屋太兵衛		130014132601
392	小松屋太兵衛宛書状（包紙）				包紙	22.9	33.0	"（端書）藤木より到来。"		130014132602
393	土佐光清宛書状	勝山琢如			切継紙	15.3	51.7	（上書）琢如→<回麟とのみあり>。		130014130200
394	土佐光清宛書状	勝山琢如			切紙	15.9	49.1	（上書）琢如→画院待所。		130014134800
395	土佐光清宛書状	勝山琢如			切継紙	15.3	29.2	（上書）琢如→土佐守。		130014135400
396	土佐光清宛書状	勝山琢如			切継紙	15.4	59.3	（上書）勝山図書→土佐守。		130014131400
397	土佐光清宛書状	勝山琢如			切継紙	15.3	72.3	（上書）図書→土佐守。		130014135500
398	土佐光清宛書状	勝山琢如			切継紙	16.0	83.2	（上書）図書→土佐守。		130014136400
399	土佐光清宛書状	勝山琢如			切継紙	16.0	89.7	（上書）仲章→寺町様。		130014132100
400	土佐光清宛書状	飛鳥井雅孝			切継紙	15.5	38.7	（上書）（飛鳥井）雅孝→土佐土佐守。		130014136100
401	勝山琢如宛書状	飛鳥井雅章			切継紙	17.9	37.3	（上書）（飛鳥井）雅章→勝山。		130014130900
402	葬儀転宅諸式入り用覚	作者不詳			切継紙	15.7	39.2			130014130800
403	金銭受渡覚	作者不詳	文久2年	1862	切紙	16.3	13.3			130014133200
土佐光文関係										
404	土佐光文宛書状	冷泉為泰			折紙	34.6	44.8	（上書）為泰（判）→備前守。		130014134900
405	土佐光文宛書付（夢の告）	冷泉為理			豎紙	36.2	49.4	権中納言為理（判）→土佐備前守。 405・406 一具。		130013330100
406	土佐光文宛書付（夢の告）	冷泉為理			豎紙	36.2	49.6	405・406 一具。		130013330200
407	土佐光文宛書状	冷泉為理	明治2年	1869	豎紙	36.2	49.8	為理→土佐備前守。		130013340200
408	土佐光文及土佐光武宛書状	土族触頭	明治4年	1871	切継紙	16.5	50.8	土族触頭→土佐光文、土佐光武。		130014137430
土佐光武関係										

409	土佐光武宛書状	中山五兵衛	慶応2年	1866	切継紙	16.2	38.1	中山五兵衛→土佐土佐介。		130014133700
410	土佐光武宛書状	中山五兵衛			切継紙	16.5	47.0	中山五兵衛→土佐豊前介。		130014133800
411	中山宋女宛覚	中山五兵衛	万延元年	1860	切紙	16.5	19.8	中山五兵衛→中山宋女。		130014130400
412	中山宋女宛書状	中山五兵衛	文久元年	1861	切継紙	17.9	70.0	中山五兵衛→中山宋女。		130014136200
413	中山宋女及中山清心院宛書状	中山五兵衛	文久元年	1861	切継紙	16.7	72.3	中山五兵衛→中山宋女、中山清心院。		130014135300
414	中山宋女及中山清心院宛書状	中山五兵衛			切継紙	16.3	137.2	中山五兵衛→中山清心院、中山宋女。		130014136700
415	土佐光武宛書状	中山五平	明治3年	1870	切継紙	16.3	99.0	中山五平→土佐五位。		130014137481
416	土佐光武宛書状(封紙)	中山五平	明治3年	1870	封紙	24.6	33.5	中山五平→土佐五位。		130014137482
417	土佐光武及近江屋熊吉宛書状	中山五平	明治5年	1872	切継紙	15.4	45.7	中山五平→土佐光武、近江屋熊吉。		130014133900
418	百々俊達、土佐光武及近江屋熊吉宛書状	中山五平	明治5年	1872	切継紙	15.8	104.3	中山五平→百々俊達、土佐光武、近江屋熊吉。		130014133101
419	百々俊達、土佐光武及近江屋熊吉宛書状(封筒)	中山五平	明治5年	1872	封筒	17.2	4.7	中山五平→百々俊達、土佐光武、近江屋熊吉。		130014133103
420	土佐光武宛書状(附藤田より中山五平宛書状)	中山五平	明治9年	1876	切継紙	15.2	23.1	藤田→五平。中山五平宛書状転送。		130014133401
421	土佐光武宛書状(封筒)	中山五平	明治9年	1876	封筒	17.1	4.8	中山五平→土佐光武。		130014133402
422	土佐光武宛書状	中山五平			切紙	15.7	27.4	五平→土佐。		130014137470
423	土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五兵衛	慶応元年	1865	切継紙	16.4	39.0	中山五兵衛→土佐豊前介、土佐御老母。		130014134400
424	土佐光武、土佐光武母及近江屋熊吉宛覚	中山五平	明治5年	1872	切継紙	15.8	82.0	中山五平→土佐御老母、土佐光武、近江屋熊吉。		130014135000
425	土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五平	明治6年	1873	切紙	16.6	47.2	中山五平→土佐御老母、土佐光武。		130014134600
426	土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五平	明治7年	1874	切継紙	15.8	48.7	中山五平→土佐御老母、土佐光武。		130014134500
427	土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五兵衛	明治7年	1874	切継紙	15.9	85.2	中山五兵衛→土佐御老母、土佐光武。		130014131900
428	土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五平	明治8年	1875	切紙	15.4	44.0	中山五平→土佐御老母、土佐光武。		130014137100
429	中山文啓代土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五平	明治9年	1876	折紙	27.5	38.6	中山五平→中山文啓代土佐光武、土佐御老母。		130014134200
430	土佐光武及土佐光武母宛書状	中山五平			切継紙	16.0	45.0	中山五平→土佐光武、土佐御老母。		130014134300
431	土佐光武母宛書状	中山五平			切継紙	15.3	94.1			130014132701
432	土佐光武母宛書状(封筒)	中山五平			封筒	16.5	5.1	五平→寿恵院。		130014132702
433	土佐光武母宛書状	中山五平			切紙	13.7	9.9			130014137301
434	土佐光武母宛書状(封筒)	中山五平			封筒	14.4	5.0	中山五平→土佐光武様御内御老母。		130014137302
435	土佐光武母及百々俊達宛書状	中山五平			切継紙	18.1	71.6	中山五平→土佐御後室、百々俊達。		130014137201
436	土佐光武宛書状(封紙)	中山五平			封紙	24.8	33.9	中山五平→土佐光武。		130014137202
437	土佐光武宛書状	中山立恭	慶応2年	1866	切継紙	16.1	106.6	中山立恭→土佐土佐介。		130014133001
438	土佐光武宛書状(封紙)	中山立恭	慶応2年	1866	封紙	24.5	34.1	中山立恭→土佐土佐介。		130014133002
439	土佐光武宛書状	中山立恭			切継紙	16.4	71.7	中山立恭→土佐豊後介。		130014131700
440	土佐光武宛書状	中山立恭			切継紙	15.7	71.3	中山立恭→土佐土佐介。		130014136300
441	土佐光武母及土佐光武宛書状	中山立恭			切継紙	16.0	143.3	中山立恭→土佐寿恵院、土佐光武。		130014136600

442	土佐光武母宛書狀	中山立恭			切継紙	15.7	69.0	中山立恭→土佐御後室。		130014132000
443	土佐光武宛書狀	百々俊達、中山立甫	明治2年	1869	切紙	15.7	24.4	百々從五位、中山立甫→土佐從五位。		130014137460
444	土佐光武宛書狀	中山歌民、原又市、遠藤伝四郎			切継紙	16.1	80.0	中山歌民、原又市、遠藤伝四郎→土佐五位。		130014137001
445	土佐光武宛書狀(封紙)	中山歌民、原又市、遠藤伝四郎			封紙	19.5	24.3	中山歌民、原又市、遠藤伝四郎→土佐五位。		130014137002
446	佐渡河原田石高覚	中山家(佐渡)			切紙	16.0	38.3			130014131300
447	中山宋女宛書狀	近江屋熊吉			切紙	16.7	28.6	近熊→中山宋女。		130014131100
448	土佐光武及中山宋女宛書狀	近江屋熊吉			切紙	16.7	32.3	近江屋熊吉→中山宋女、土佐。		130014131200
449	中山清心院及中山宋女宛書狀	長嶋武右衛門			切継紙	15.8	67.8	長嶋武右衛門→中山清心院、中山宋女。		130014131600
450	中山宋女及小松屋太兵衛宛覚	塗屋宗助			切継紙	16.1	33.8	塗屋宗助→中山宋女、小松屋太兵衛。		130014130600
451	土佐宛書狀	百々俊達			切紙	24.7	34.1	(上書)百々→土佐。		130014137420
452	中山五兵衛宛書狀	土佐寿恵院			切継紙	15.7	58.7	土佐寿恵院→中山五兵衛。		130014134000
453	中山文啓宛覚	中山五兵衛	文久3年	1863	切紙	17.8	34.3	中山五兵衛→中山文啓。		130014134700
454	近江屋熊吉宛覚	中山五兵衛	慶応2年	1866	切継紙	16.0	13.8	中山五兵衛→近江屋熊吉。		130014133300
455	中山自取堂宛書狀	中山五兵衛、中山立恭、中山六兵衛、中山歌民、中山市郎兵衛			折紙	30.3	39.7	中山五兵衛、中山立恭、中山六兵衛、中山歌民、中山市郎兵衛→中山自取堂。		130014136801
456	中山自取堂宛書狀(封紙)	中山五兵衛、中山立恭、中山六兵衛			封紙	24.4	34.4	中山五兵衛、中山立恭、中山六兵衛→中山自取堂。		130014136802
457	百々俊達宛書狀	吉田数馬	明治5年	1872	切紙	25.4	28.6	吉田数馬→百々從五位。中山五平書狀に添付。		130014133102
458	百々俊達及中山立甫宛書狀	九鬼左源太	明治2年	1869	切紙	25.0	34.0	九鬼左源太→百々俊達、中山立甫。		130014137410
459	中山五兵衛、中山立恭、呉竹丈助及中山和吉宛書狀写	藤田庸雄	明治9年	1876	折紙	27.6	39.0	藤田庸雄→中山五兵衛、中山立恭、呉竹丈助、中山和吉。		130014134101
460	中山五兵衛、中山立恭、呉竹丈助及中山和吉宛書狀写	藤田庸雄	明治9年	1876	折紙	27.5	25.1	藤田庸雄→中山五兵衛、中山立恭、呉竹丈助、中山和吉。		130014134102
461	百々俊達宛書狀(京都府)	侍医当番			切継紙	16.5	40.5	侍医当番→百々從五位。		130014137440
462	近江屋熊吉宛書狀(封紙)	伏見屋栄一郎			封紙	21.9	5.0	伏見屋栄一郎→近江屋熊吉。		130014132900
463	谷口平八宛覚	大西浄寿	文久3年	1863	切紙	24.5	24.3	釜師浄寿→谷口平八。		130014130500
464	土佐家宛金子預状	銭屋留次郎、銭屋嘉七、銭屋惣助	元治元年	1864	豎紙	33.2	48.2	土佐御璽。		130012850100
465	土佐家宛金子預状	銭屋留次郎、銭屋嘉七、銭屋惣助	元治元年	1864	豎紙	33.3	48.2	土佐御璽。		130012850200
466	土佐家宛受取	中村某			切紙	24.0	5.5	中村(印)→土佐。		130014137450
467	土佐光武宛印刻送状	富岡鉄斎			軸	13.5	15.8	鉄斎百鍊→土佐。光武印。		130014360100
不明書狀										
468	山田甚兵衛宛書狀	不明			切継紙	17.1	67.5	(上書) < 不説 > →山田甚兵衛。		130014135200
469	素書遵義章抄書	黎畝			卷子	19.2	57.2	黎畝→ < 不明 >。		130013590100

470	楠木正成書状写（楠木正行宛）	作者不詳			縦紙	27.4	37.6	建武3年（1336）楠兵衛→楠庄五郎。		130014150300
471	雪舟書状写（宗洞宛）	作者不詳			卷子	26.5	39.6	雪舟（判）→洞藏主。		130016160100
和歌										
和歌（懐紙・短冊）										
472	和歌懐紙（河落葉・寄鳥恋）	土佐光芳			軸	31.7	43.6	光芳。		130014350100
473	和歌懐紙（求若菜・池辺鶴）	土佐光芳			縦紙	33.7	46.4	光芳。		130013790100
474	和歌折紙（庭松契久）	土佐光淳			縦紙	32.7	45.6	藤満丸。		130013790300
475	和歌懐紙（春日詠庭松契久）	土佐光貞			縦紙	33.2	45.1	内匠大屬光貞。		130013790200
476	和歌懐紙	風早実積			縦紙	32.8	46.8	（押紙）風早前宰相実積卿。		130013790400
477	和歌懐紙（光清朝臣をはじめ）	賀茂直兄			縦紙	32.5	45.6			130013790800
478	和歌懐紙（土佐の大人はしも）	清原中輔			縦紙	32.7	44.9			130013790700
479	和歌懐紙（土佐鶴阜先生の古稀の賀）	村上元茂			縦紙	32.3	44.4	松嶺源元茂。		130013790600
480	和歌懐紙	作者不詳			縦紙	35.2	48.7			130013790500
481	和歌懐紙（橘・滝）	御齒常尹			縦紙（破れ）	31.5	33.1	常尹。		130013640100
482	和歌懐紙（うつす御影）	冷泉為理	明治7年	1874	縦紙	32.2	45.2	為理。		130013430101
483	冷泉為理懐紙包紙	土佐光文	明治7年	1874	包紙	45.3	32.1			130013430102
484	和歌色紙	近衛信尹			短冊	19.3	13.8			130012990100
485	和歌色紙包紙	土佐家			包紙	27.8	40.0			130012990200
486	和歌短冊（故前内府）	土佐光芳			短冊	38.1	6.4	光芳。		130013430700
487	和歌短冊（草漸青）	土佐光芳			短冊	36.1	5.8	常覺。		130013430900
488	和歌短冊（庭落葉）	土佐光淳			短冊	38.0	5.8	光淳。		130013431100
489	和歌短冊（七十の）	土佐光貞			短冊	35.8	5.4	光貞。		130013431000
490	和歌短冊（さらぬたに）	土佐光孚			短冊	36.3	5.8	光孚。		130013430600
491	和歌短冊（天満宮の）	土佐光清			短冊	36.9	6.1	光清。		130013430200
492	和歌短冊（祖母刀白）	土佐光清			短冊	36.2	6.1	光清。		130013430300
493	和歌短冊（光信朝臣）	慈光寺有仲			短冊	36.4	6.1	有仲。		130013430400
494	和歌短冊（故土佐光文）	慈光寺有仲			短冊	36.4	6.0	有仲。		130013430800
495	和歌短冊（光文朝臣）	慈光寺有仲			短冊	36.4	6.1	有仲。		130013430500
496	和歌短冊軸（うつし絵の・今年より）	柳原光綱・風早公雄			軸	34.1	5.1	光綱。公雄。		130016150100
497	詩歌書卷	土佐家			卷子	31.9	484.0			130014090100
498	享保四年正月公宴和歌御会始及洞中御会始	土佐家	享保4年	1719	横冊	14.7	42.7	8丁。		130013240100
499	寛政八年和歌書拔	土佐光孚	寛政8年	1796	縦冊	22.8	16.0	9丁。		130013040100
500	大伴家持讃酒歌十三首	土佐家			縦冊切本	13.2	18.2	4丁。		130013050100
連歌										
501	連歌秘書	作者不詳			横半冊	18.9	13.1	10丁。		130016040100
502	連歌切	伝 宗長			縦冊切本	13.7	15.2	2丁。		130016030100
503	連歌切（一）	土佐光芳			折紙	32.8	46.5	503・504一具。		130013060100

504	連歌切(二) 詩	土佐光芳			折紙	32.9	46.6	503・504 一具。		130013060200
505	七絶詩懐紙	京極宮家仁親王			豎紙	39.1	53.0			130013840100
写本										
社寺縁起・物語										
506	三国三社権現縁起	土佐家			卷子	37.5	305.5			130014100100
507	山王利生縁起	土佐家			卷子	29.0	208.6			130014250100
508	平野郷社縁起	土佐家			豎冊	24.0	17.0	26 丁。		130016090100
509	高貴寺縁起詞	土佐家			豎紙	28.9	39.8			130014270100
510	竹取物語絵巻詞	土佐家			横冊	16.7	47.2	2 丁。	目 06	130013300100
511	源氏歌合詞	土佐家			卷子	16.8	239.0			130013560100
512	源氏物語花宴抄	土佐家			切継紙	16.0	61.5			130014340800
513	いつくしまの本地	土佐家			豎冊	23.4	17.0	30 丁。		130016100100
歴史										
514	続日本紀巻七	土佐家			豎冊	24.9	18.4	5 丁。		130013570100
515	時代一覽	作者不詳	天保 12 年	1841	折本	38.1	87.2	墨摺。		130016170100
516	萬松院殿薨去之事	土佐家			豎紙(綴)	30.0	45.5	3 紙。	目 01	130011650900
517	豊国神君御葬式順列並記之記	土佐家	明治 17 年	1884	豎冊	24.7	12.2	13 丁。		130013370100
518	江戸城本丸図	作者不詳			折本	83.0	44.6	一冊。図入り。著彩。		130016180100
519	夷艦防計録	土佐家	嘉永 6 年頃	c.1853	横半冊	12.0	16.3	2 丁。		130013070100
520	洛中擾乱大記	作者不詳	元治元年頃	c.1864	豎冊	22.0	13.9	13 丁。		130016020100
故実										
521	山槐記陣執筆図(中山忠親)	土佐家			豎冊	28.0	20.9	19 丁。応永 32 年(1425)奥書写。		130013310100
522	押小路内大臣公茂公記(三条公茂)	土佐家			卷子	28.4	1124.8	寛文 2 年(1662)中御門資熙奥書写。		130016130100
523	雲図抄(藤原重隆)	作者不詳			卷子	26.4	1390.1	図入り。一部著彩。		130013800100
524	類聚抄	作者不詳			卷子	28.7	622.0	図入り。		130016120100
525	文安御即位調度図	土佐家			豎紙(綴)	29.0	43.0	22 紙。図入り。著彩。		130014050100
526	文安御即位調度図	作者不詳			豎冊	27.0	19.3	23 丁。図入り。著彩。		130016050200
527	享保二十年御即位装束図卷(典侍・内侍・女王)	土佐家			卷子	36.9	1072.6	図入り。著彩。		130012330100
528	冠帽図会(松岡辰方)	作者不詳			豎冊	27.2	19.3	21 丁。著彩。		130016050100
529	三十六歌仙服飾備要	作者不詳			卷子	15.6	129.1			130012860100
530	鎧威毛図(新井白石)	土佐光輝	明治 27 年	1894	卷子	27.7	783.4	明和 4 年(1767)伊勢貞丈奥書写、安永 6 年(1777)源明次奥書写。図入り。著彩。		130012100100
531	小笠原流鞭策秘伝	土佐家			卷子	18.2	418.6	小笠原氏頼(ママ)、小笠原氏隆奥書写。享保 2 年(1717)水島卜也、森平格、青木平也から高橋勝九郎に伝受奥書写。図入り。一部著彩。		130012880100

532	武羅之書	土佐家			豎冊	24.1	17.5	6丁。		130013120100
諸学										
533	本朝五常図並讃	土佐家			卷子	30.9	400.8	延宝7年(1679)林直民與書写。		130013350100
534	仏法双六	作者不詳			折本	84.4	62.8	一舗。図入り。一部著彩。		130015160100
535	近星占術覚	作者不詳			折紙	28.5	40.9			130014131800
刷物										
536	宝舟版画(竹内栖鳳)	竹内栖鳳			切紙	27.8	19.8	墨摺。		130013620100
537	宝舟版画(三井甲子)	三井甲子			豎紙	19.8	27.6	墨摺。		130013620200
538	宝舟版画(国井応陽)	国井応陽			切紙	27.7	19.8	墨摺。		130013620300
539	宝舟版画(今尾景年)	今尾景年			切紙	27.8	20.4	墨摺。		130013620400
540	宝舟版画(国井応陽)	国井応陽			切紙	27.7	19.8	墨摺。		130013620500
541	宝舟版画(鈴木松年・原在泉)	鈴木松年・原在泉			豎紙	27.7	39.7	墨摺。		130013620600
資料										
印類										
542	印類(光武之印)	作者不詳			(印類)	2.6	2.6	石製。		130014400100
543	印類(藤原光武)	加藤有年	明治35年	1902	(印類)	2.5	2.5	側款あり。石製。		130014400200
544	印類(光武之印)	作者不詳			(印類)	2.3	2.3	石製。		130014400300
545	印類(光武之印)	風越			(印類)	2.0	1.9	側款あり。石製。		130014400400
546	印類(土佐光武)	作者不詳			(印類)	2.1	1.8	石製。		130014400500
547	印類(光武之印)	作者不詳			(印類)	1.7	1.8	石製。		130014400600
548	印類(光武)	作者不詳			(印類)	1.7	1.6	石製。		130014400700
549	印類(土佐光武)	作者不詳			(印類)	1.6	1.6	石製。		130014400800
550	印類(光武印信)	永年	慶応3年	1867	(印類)	1.4	1.4	側款あり。石製。		130014400900
551	印類(光武)	作者不詳			(印類)	1.9	1.1	石製。		130014401000
552	印類(光武)	作者不詳			(印類)	1.0	1.0	石製。		130014401100
553	印類(光武)	作者不詳			(印類)	1.6	1.1	石製。		130014401200
554	印類(光武)	作者不詳			(印類)	1.4	0.7	石製。		130014401300
555	印類(光武)	作者不詳			(印類)	0.9	0.6	石製。		130014401400
556	印類(光武)	作者不詳			(印類)	1.0	0.5	石製。		130014401500
557	印類(藤原光武之印)	作者不詳			(印類)	4.6	2.6	黄銅製。		130014401600
558	印類(華顔人)	永年			(印類)	2.7	2.7	側款あり。石製。		130014401700
559	印類(坐翠)	作者不詳			(印類)	2.0	0.7	石製。		130014401800
560	印類(土佐光輝)	加藤有年	明治35年	1902	(印類)	1.8	1.9	側款あり。石製。		130014401900
561	印類(光輝)	作者不詳			(印類)	2.4	1.4	石製。		130014402000
562	印類(光輝印信)	加藤有年	明治22年	1889	(印類)	1.3	1.3	側款あり。石製。		130014402100
563	印類(光輝)	作者不詳			(印類)	1.7	0.7	石製。		130014402200
564	印類(南極老人無窮之壽)	作者不詳			(印類)	2.5	2.7	石製。		130014402300

565	印頼 (土佐藏書)	作者不詳			(印頼)	3.3	3.2	石製。		130014402400
566	印矩	作者不詳			(印矩)	12.9	6.8			130014402500
567	印矩	作者不詳			(印矩)	6.5	5.0			130014402600
568	印箱	作者不詳			(木箱)	9.3	13.6			130014402700
裂地										
569	裂地 (御簾縁)	作者不詳			(裂)	12.5	85.4	麻製。		130014385400
570	裂地 (御簾縁)	作者不詳			(裂)	13.8	20.2	麻製。		130014385500
571	裂地 (御簾縁)	作者不詳			(裂)	5.4	16.3	麻製。		130014385600
572	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.2	8.8	絹製。		130014385700
573	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.7	9.0	絹製。		130014385800
574	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.4	8.8	絹製。		130014385900
575	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.1	8.9	絹製。		130014386000
576	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.6	8.9	絹製。		130014386100
577	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.4	8.9	絹製。		130014386200
578	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.7	8.9	絹製。		130014386300
579	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	6.9	9.0	絹製。		130014386400
580	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.6	8.9	絹製。		130014386500
581	裂地 (軟錦)	作者不詳			(裂)	7.3	8.9	絹製。		130014386600
582	裂地 (錦)	作者不詳			(裂)	7.3	2.3	絹製。		130014386700
583	裂地 (錦)	作者不詳			(裂)	24.6	2.5	絹製。		130014386800

